令和４年度

三戸町教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検評価に関する報告書

－令和４年度事業の点検評価－

三戸町教育委員会

目　次

◇　点検・評価の概要　・・・・・・・・・　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

◇　令和４年度三戸町教育基本方針　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3

◇　令和４年度施策別主要事業一覧表　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１０

◇　施策分野ごとの重点項目に関する点検及び評価

1　教育環境の整備促進等

重点項目	点検評価の対象事業	頁
(１)小中一貫教育体制の充実	ア　小中一貫教育推進委員会	１２
(２)就学支援等の充実	イ　要保護・準要保護児童生徒就学援助事業	１２
	ウ　特別支援教育就学奨励事業	１３
	エ　奨学金貸与事業	１３
	オ　私立幼稚園就園奨励費補助事業	１４
	カ　第３子以降子育て支援事業	１４
(３)教育活動支援のための補助事業の充実	キ　全国大会等児童派遣費補助事業	１４
	ク　中体連等派遣費補助事業	１５
	ケ　教育振興協議会支援事業	１５
	コ　学校保健会補助事業	１６
(４)その他教育環境の充実	サ　スクールバス等運行事業	１６
	シ　部活バス・部活支援バス運行事業	１７
	ス　児童・生徒・教職員健康診断及び就学時健診	１７
	セ　学校評議員設置事業	１８
	ソ　学習コーチ事業	１８
	タ　探求コーチ事業	２０
	チ　三戸町立学校給食共同調理場運営	２１
	ツ　三戸高等学校との連携推進（魅力化推進事業補助金）	２２

2　学校教育指導の重点

重点項目	点検評価の対象事業	頁
(１)小中一貫教育の推進	ア　三戸町学校教育研究大会	２４
	イ　特色ある教育活動推進事業（三教研）	２４
	ウ　小中乗り入れ授業実施	２４

	エ　小中一貫教育支援特別講師設置事業	２６
(２)授業の充実	オ　授業技術研修講座（三教研）	２６
(３)立志科の充実	カ　立志科推進事業補助金交付事業	２７
(４)体育健康教育の充実	キ　基本的生活習慣（生活リズム）講演事業	２８
	ク　栄養教諭による食の出前授業	２８
(５)生徒指導の充実	ケ　生活習慣改善による不登校対策事業	２９
	コ　学級経営のための調査（Q-U、ASSESS）（三教研）	２９
	サ　教育相談室運営（三教研）	３０
	シ　不登校等連絡会議（三教研）	３０
(６)キャリア教育の推進	ス　立志科推進事業補助金交付事業（再掲）	３１
(７)特別支援教育の充実	セ　小中一貫教育チューター設置事業	３２
	ソ　教育支援委員会（三教研）	３２
	タ　教育支援委員会学習会（三教研）	３３
	チ　特別支援教育コーディネート事業	３３
(８)環境教育の推進	ツ　立志科推進事業補助金交付事業（再掲）	３４
(９)国際化に対応する教育の推進	テ　外国語指導助手（ＡＬＴ）招致事業	３５
	ト　GTEC（英語４技能検査）	３６
	ナ　小・中学生海外派遣事業(オンライン留学事業)	３６
(10)情報化に対応する教育の推進	ニ　ICT支援員設置事業	３７
	ヌ　三戸地方未来塾補助事業	３８
	ネ　GIGAスクールサポート業務	３９
(11)安全・安心な学校環境づくりの推進	ノ　学校施設・設備整備	３９
	ハ　日本スポーツ振興センター災害共済給付事業	４０
	ヒ　児童生徒緊急搬送タクシー運行事業	４０
(12)教員研修の充実	フ　授業実践支援事業（三教研）	４１
	ヘ　教育相談研修講座（三教研）	４１
(13)複式教育の充実	ホ　学級経営のための調査（Q-U、ASSESS）（三教研）（再掲）	４２

３　社会教育指導の重点

重点項目	主　要　事　業	頁
(１)学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成	ア　さんのへ農業小学校支援事業	４３
	イ　三戸町子ども会育成連絡協議会支援事業	４３
	ウ　伝統芸能保存継承事業	４４
	エ　ふれあい活動事業	４４
	オ　放課後子ども教室推進補助事業	４５
	カ　青少年健全育成三戸町民会議運営事業	４５
	キ　三戸町少年指導センター運営事業	４６
	ク　家庭教育学級開催事業	４６
(２)活力ある地域コミュ	ケ　二十歳を祝う会開催事業	４７

ニティの形成に向けた人財の育成	コ　三戸町人材活用講師派遣事業	４７
	サ　ふれあい活動事業（再掲）	４７
（３）一人一人の主体的な学習と社会参加の推進	シ　公民館講座	４８
	ス　公民館分館講座委託事業	４８
	セ　三戸町歴史講座	４９
	ソ　高齢者学級寿教室	５０
	タ　子ども公民館講座	５１
	チ　わくわく城山楽園体験スクール	５１
	ツ　公民館まつり開催事業	５２
（４）社会教育推進のための基盤整備	テ　三戸町中央公民館管理運営	５２
	ト　社会教育関係団体補助事業	５３
	ナ　サークル活動への支援	５３
	ニ　三戸町立図書館の運営	５４
（５）生涯スポーツの振興	ヌ　総合優勝制町内対抗スポーツ大会	５４
	ネ　町民歩け歩け運動	５５
	ノ　三戸町スポーツ賞表彰	５５
	ハ　各種スポーツ大会補助事業	５６
	ヒ　三戸町体育協会支援事業	５６
	フ　スポーツ指導者の養成・活用	５７
	ヘ　勤労者体育施設管理運営（武道館・サンスポ）	５７
	ホ　スポーツ少年団の育成支援	５８
	マ　体育館等管理運営（町民体育館・松原運動公園）	５８
	ミ　アップルドーム管理運営	５９
	ム　パークゴルフ場管理運営	５９
	メ　町民プール管理運営	６０
（６）芸術・文化活動の充実と文化財の保存	モ　三戸町立版画工房運営	６１
	ヤ　芸術文化団体等補助事業	６１
	ユ　三戸町文化賞表彰	６１
	ヨ　三戸城跡保存活用事業	６２
	ラ　歴史民俗資料館運営	６３
	リ　地域学習サポート事業	６４
	ル　伝統芸能保存継承事業（再掲）	６５
	レ　歴史講演事業	６６

点検・評価の概要

１．趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の規定により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することとされています。

この法律を受け、三戸町教育委員会では、令和４年度における教育に関する事務の点検及び評価を実施し、その結果を報告書としてまとめました。

２．点検・評価の方法

(1) 三戸町教育基本方針

三戸町教育委員会では、令和４年３月に策定した令和４年度三戸町教育基本方針に定める学校教育指導の方針と重点及び社会教育指導の方針と重点に基づき各種事業を実施しています。

(2) 点検・評価の対象

点検・評価にあたっては、別添「令和４年度施策別主要事業一覧表」の３つの施策分野ごとに掲げる重点項目を推進するための主要事業（９０事業（再掲含む））を点検・評価の対象としました。

(3) 学識経験者（外部評価委員）の知見の活用

点検・評価の客観性を確保するため、学識経験者を「外部評価委員」として委嘱し、点検・評価の実施方法や内容について意見をいただき、これを参考に報告書を作成しました。

○外部評価委員

氏　名	役　　職　　等
友田博文	青森公立大学非常勤講師（青森市）
木村明彦	元小学校校長　　（三戸町）

３．評価報告書の作成

評価報告書は、主要事業（９０事業）ごとに、（１）事業の概要、（２）事業実績、（３）成果と課題、（４）事業の方向性の記述により作成しています。

４．令和４年度点検・評価作業の経過

○外部評価委員会議（R5.3.30）

①令和４年度評価に係る実施要綱の確認
②令和４年度の事業取組みについて説明
③点検・評価の報告書の作成方法についての確認
④点検・評価作業日程についての確認

○外部評価委員による評価のための事業調査（随時）

○教育委員会事務局職員による事業評価シートの作成（R5.3～4）

○三戸町教育委員会へ報告書提出（R5.5.24）

５．評価報告書の公表

評価報告書は、三戸町役場ホームページに掲載し公表します。

参考

地方教育行政の組織及び運営に関する法律

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第二十七条　教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第三項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

２　教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たつては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

令和４年度三戸町教育基本方針

【 教育施策の方針 】

三戸町教育委員会は、郷土に誇りを持ち、多様性を尊重し、創造力豊かで、新しい時代を主体的に切り拓く人づくりを目指し、夢や志の実現に向け、知・徳・体を育む小中一貫教育を推進します。

また、学校教育と社会教育とが一体となり、誰でも生涯を通じて主体的に学ぶことができる生涯学習社会の実現を図ります。

そして学校、家庭、地域社会が教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携・協力に努め、個性豊かでうるおいのある教育を推進します。

【令和４年度三戸町学校教育指導の方針と重点】

１　方　針

郷土に誇りを持ち、多様性を尊重し、創造力豊かで、新しい時代を主体的に切り拓く児童生徒を育成するため、教育は人づくりという視点に立って、学校運営に創意工夫をこらし、夢や志の実現に向け、知・徳・体を育む小中一貫教育の推進に努める。

２　重　点

（１）小中一貫教育の推進

義務教育の９年間を見通し、子どもの発達段階と学習の連続性を重視した小中一貫教育を積極的に推進する。

ア　心豊かでたくましい児童生徒の育成のための小・中学校義務教育９年間を見通した学力観、指導観の確立

イ　児童生徒が、将来社会の一員として生きていくために必要となる基礎的な知識や技能の育成

ウ　確かな学力の確立と、豊かな心を育むための９年間を見通した教育課程の編成と実践

（２）授業の充実

一人一人の子どもが、各教科及び立志科等において、主体的・対話的で深い学びを通して確かな学力を身に付けることができるよう、言語活動の充実を図りながら、一人一人の能力・適性に応じた指導と学習習慣の育成に努める。

ア　主体的・対話的で深い学びの実現を図る指導計画等の整備

イ　知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成に向けた教材研究の深化

ウ　一人一人の学習の過程や成果の的確な把握と指導の改善につながる評価の工夫

エ　各教科等の特質に応じた体験活動や問題解決的な学習を重視した指導の工夫

オ　学校図書館やＩＣＴなどを活用した子どもの学びを支援する学習環境の充実

（３）立志科の充実

一人一人の子どもが、豊かな心を持ち人間としての生き方あり方を自覚し、将来に向けてたくましく、主体的な行動ができる人間形成を目指し、その資質や能力の育成に努める。

ア　立志科授業の指導工夫と研究

イ　郷土を愛する心を育む指導の充実

ウ　特別の教科道徳、特別活動、総合的な学習の時間を包摂した立志科の教育活動の創意工夫

エ　探究的な見方・考え方を働かせ、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成する工夫

オ　立志科を推進する指導体制と全体計画の整備・充実

（４）体育・健康教育の充実

一人一人の子どもが、生涯にわたって自ら進んで運動に親しみ、健康で安全な生活と豊かなスポーツライフ送ることができるよう、家庭や地域社会との連携を図りながら、心と体を一体として捉え、健やかな体を育む教育の推進に努める。

ア　運動に親しむ資質や能力の育成及び体力の向上を図る指導の充実

イ　健康に関する知識を身に付け、積極的に健康な生活を実践できる指導の充実

ウ　食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができる指導の充実

エ　安全に関する情報を正しく判断し、安全を確保することができる指導の充実

（５）生徒指導の充実

一人一人の子どもが、人間の尊厳という観点に立ち、教育活動全体を通して、豊かな生活を送ることができるよう、家庭や地域社会及び関係機関との連携を図りながら、心の結びつきを基調とした指導を行うとともに問題行動・不登校等の未然防止、早期発見、早期対応に努める。

ア　基本的な生活習慣を育成する協働的な指導体制の充実

イ　生徒指導の分析調査を生かした学年・学級経営の充実

ウ　児童理解・生徒理解に基づいた教育相談の充実

エ　児童生徒が主体となるいじめ防止活動の推進と組織的な対応の徹底

（６）キャリア教育の推進

一人一人の子どもが、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立ができるよう、必要な基盤となる資質・能力の育成に努める。

ア　立志科におけるキャリア教育指導体制の整備・充実

イ　９年間を見通した将来の生き方指導・進路指導の充実

ウ　児童生徒の発達の段階に応じた勤労観・職業観の育成

（７）特別支援教育の充実

発達障害を含む障害のある子どもなど特別な配慮を必要とする子どもが、障害等による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するとともに、そのもてる力を最大限に発揮して自立や社会参加ができるよう、一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導及び必要な支援に努める。

ア　校内支援体制の整備・充実

イ　個別の教育支援計画の作成と活用による関係機関と連携した支援の充実

ウ　個別の指導計画の作成と活用による指導の充実

エ　交流及び共同学習による相互理解の促進

（８）環境教育の推進

一人一人の子どもが、身近な環境や環境問題に関心を持ち、人間と環境とのかかわりについて理解を深め、環境の保全やよりよい環境づくりのために、環境問題に主体的に取り組む態度や実践力の育成に努める。

ア　教科等間の関連を踏まえた指導の工夫

イ　立志科における地域の環境の実態に即した指導の工夫

ウ　環境にかかわる体験的活動の充実

（９）国際化に対応する教育の推進

一人一人の子どもが、国際社会で主体的に生きる日本人としての基礎的資質を養うため、人間尊重の精神を基盤として、我が国や諸外国の文化と伝統について関心と理解を深めるとともに、国際社会に貢献できるよう、国際理解教育の充実に努める。

ア　異文化に対する理解やそれを尊重する態度の育成

イ　英語によるコミュニケーション能力の育成のため、ＡＬＴ（外国語指導助手）をはじめとするネイティブスピーカーを活用した英語科（小学校）の推進

（１０）情報化に対応する教育の推進

一人一人の子どもが、情報モラルを含む情報活用能力を身に付けることができるよう、系統的・体系的な情報教育の推進に努める。

ア　立志科を中心とした情報教育を推進する指導体制の整備・充実

イ　学習指導におけるＩＣＴの適切な活用

ウ　家庭や地域社会と連携した情報モラルに関する指導の充実

（１１）安全・安心な学校環境づくりの推進

一人一人の子どもが、安全で安心して学習できる学校環境づくりため、学校への不審者の侵入などに備えた、学校、家庭、地域とが連携した取り組みの充実に努める。

ア　学校警察連絡協議会等における情報交換や関係機関との連携・協力の推進

イ　学校施設・設備保全の推進

ウ　防災・防犯等安全教育の充実

（１２）教員研修の充実

教員が教育公務員としての使命と責任を自覚し、豊かな人間性、広い社会性、深い専門性を身に付け充実した教育活動を実践することができるよう、教員に対する計画的・実践的な研修の充実に努める。

ア　教員の資質の向上に関する指標を踏まえた研修の推進

イ　日常的に学び合い、指導力を高め合う校内研修体制の整備・充実

ウ　学習指導要領、三戸町小中一貫教育要領に基づく実践的研究の充実

エ　学校の教育課題解決のための実践的研究の充実

オ　家庭や地域社会と連携し、地域の教育資源を活用した特色ある教育活動の研究・推進

（１３）複式教育の充実

少人数の特性を生かし、一人一人の個性・能力の伸長を図るとともに、社会性の育成に努める。

ア　学校運営・学級経営の創意工夫

イ　複式指導の充実

ウ　複式授業研修の充実

【令和４年度三戸町社会教育行政の方針と重点】

１　方　針

町民が、生涯にわたって自己の啓発・向上を目指し、生きがいのある充実した生活を送るとともに、人と人とのつながりを大切にする豊かで住みよい地域社会をつくり出すことができるよう、一人一人の生涯にわたる学習と社会参加を実現する社会教育の推進に努める。

２　重　　点

（１）学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成

多様な体験活動機会の充実を図り、心豊かでたくましい青少年の育成に努める。

ア　青少年の体験活動の充実

(ｱ)「さんのへ農業小学校」の支援

(ｲ)町内子ども会、三戸町子ども会育成連絡協議会の活動支援

(ｳ)異世代・異年齢交流事業の推進

イ　地域が支えるキャリア教育の充実

(ｱ)「ナナメ」の関係づくりを意識した学習機会の推進（子ども会活動）

(ｲ)ふるさと意識を醸成する場の拡充（芸能保存会等補助事業）

(ｳ)キャリア教育の推進（出前授業・職場体験）

ウ　子どもの読書活動の充実

(ｱ)読み聞かせボランティアグループの育成と支援

(ｲ)読書活動推進のための啓発と情報提供

エ　地域全体で子どもを育む活動の充実

(ｱ)地域住民と子どもをつなぐ実践の場の工夫（ふれあい活動）

(ｲ)子どもの健全な育成に向けての住民の意識や目的の共有化を図る工夫(放課後子ども教室推進事業)

(ｳ)青少年健全育成三戸町民会議との連携

(ｴ)三戸町少年指導センターとの連携

オ　家庭教育支援の充実

(ｱ)「三戸町家庭教育学級」事業の充実

(ｲ)三戸町連合父母と教師の会との連携

（２）活力ある持続可能な地域づくりに向けた人財の育成

地域活動の実践者、コーディネーター等のネットワークづくりに努める。

ア 地域活動の実践者、コーディネーターの養成

イ 次代を担う若者の育成

ウ 地域活動に関わる人財のネットワーク形成の支援

（３）生涯を通じた学びと社会参加の推進

町民一人一人の主体的な学習を推進するとともに、学習の成果を地域で生かすことができるよう、社会参加活動の支援の充実に努める。

ア　関係機関との連携による多様な学習機会の支援

(ｱ)中央公民館講座、分館講座、歴史講座、高齢者学級寿教室の開講

(ｲ)大学との連携による講演会及び学習会（園・保育所･学校の保護者対象）の開催

(ｳ)「子ども公民館講座」の開講

(ｴ)「わくわく城山楽園」の開設

イ　学習成果を生かした社会参加活動の支援

(ｱ)学びの成果を生かす機会の拡充と積極的な活用

(ｲ)広域的な情報収集とコーディネート機能の拡充

(ｳ)学習者や愛好者などによる自主グループ・サークル活動への支援

（４）社会教育推進のための基盤整備

生涯学習活動の拠点となる社会教育施設の機能充実及び活用促進に努める。

ア　社会教育推進体制の充実

(ｱ)事業評価の充実

(ｲ)県及び他市町村の学習情報の収集・提供

イ　社会教育施設の機能の充実と活用の促進

(ｱ)利用者の視点に立った環境の工夫

(ｲ)町民の学習ニーズの把握

ウ　社会教育関係職員の養成と資質の向上

(ｱ)研修等への積極的参加

(ｲ)社会教育主事講習への計画的派遣

エ　社会教育関係団体等の活動の支援

(ｱ) 社会教育関係団体等事業の支援

(ｲ) 自主グループ・サークルの活動支援

（５）生涯スポーツの振興

幅広い層の町民が、健康で明るく豊かな生活を送ることができるよう、スポーツに親しむ機会の拡大に努める。

ア　地域スポーツの推進

(ｱ)総合型地域スポーツクラブの支援

(ｲ)各種スポーツ大会の開催及び大会へのニュースポーツの導入

(ｳ)三戸町体育協会との連携

イ　スポーツに関わる人財の養成と活用

(ｱ)スポーツ推進委員の研修等への積極的参加

(ｲ)スポーツ推進委員の専門性を活かす場の拡充

(ｳ)スポーツ団体との連携

ウ　スポーツ活動推進のための環境整備と活用の促進

(ｱ)利用者の視点に立った環境の工夫

(ｲ)町民のスポーツニーズの把握

（６）芸術・文化活動の充実と文化財の保存

芸術・文化活動に親しむ多様な機会の提供並びに文化財の適切な保存とその活用に努める。

ア　芸術・文化活動機会の充実

(ｱ)町内の芸術・文化関係団体等との連携

(ｲ)三戸町立版画工房の運営

イ　後継者育成支援、発表機会の充実

(ｱ)後継者育成事業の推進

(ｲ)三戸町文化協会、三戸町民俗芸能保存会との連携

(ｳ)発表機会の充実

ウ　文化財の保存及び活用

(ｱ)文化財の保護と保存の推進

(ｲ)文化財の調査、研究及び指定の推進

(ｳ)三戸城跡の考古学的調査及び保護・活用の推進

(ｴ)三戸町立歴史民俗資料館における展示及び教育普及の充実

◇令和４年度　施策別主要事業一覧表

分野	重点項目	細　　目	主　要　事　業
１ 教育環境の整備促進	(1)小中一貫教育体制の充実		ア　小中一貫教育推進委員会
	(2)就学支援等の充実		イ　要保護・準要保護児童生徒就学援助事業
			ウ　特別支援教育就学奨励事業
			エ　奨学金貸与事業
			オ　幼児教育無償化事業
			カ　第３子以降子育て支援事業
	(3)教育活動支援のための補助事業の充実		キ　全国大会等児童派遣費補助事業
			ク　中体連等派遣費補助事業
			ケ　教育振興協議会支援事業
			コ　学校保健会補助事業
	(4)その他教育行政の推進		サ　スクールバス等運行事業
			シ　部活動バス・部活動支援バス運行事業
			ス　児童・生徒・教職員健康診断及び就学時健診
			セ　学校評議員設置事業
			ソ　学習コーチ事業
			タ　探求コーチ事業
			チ　三戸町立学校給食共同調理場運営
			ツ　三戸高等学校との連携推進（魅力化推進事業補助金）
２ 学校教育指導の重点	(1)小中一貫教育の推進	①心豊かでたくましい児童生徒の育成のための小・中学校義務教育９年間を見通した学力観、指導観の確立 ②児童生徒が、将来社会の一員として生きていくために必要となる基礎的な知識や技能の育成 ③確かな学力の確立と、豊かな心を育むための９年間を見通した教育課程の編成と実践	ア　三戸町学校教育研究大会
			イ　特色ある教育活動推進事業（三教研）
			ウ　小中乗り入れ授業実施
			エ　小中一貫教育支援特別講師設置事業
	(2)授業の充実	①主体的・対話的で深い学びの実現を図る指導計画等の整備 ②基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得に向けた教材の工夫と教材研究の深化 ③個に応じた学習過程と評価を重視した指導の工夫 ④各教科等の特質に応じた体験活動や問題解決的な学習を重視した指導の工夫 ⑤学校図書館やＩＣＴなどを活用した子どもの学びを支援する学習環境の充実	オ　授業技術研修講座（三教研）
	(3)立志科の充実	①立志科授業の指導工夫と研究 ②郷土を愛する心を育む指導の充実 ③特別の教科道徳、特別活動、総合的な学習の時間を包摂した立志科の教育活動の創意工夫 ④探究的な見方・考え方を働かせ、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成する工夫 ⑤立志科を推進する指導体制と全体計画の整備・充実	カ　立志科推進事業補助金交付事業
	(4)体育､健康教育の充実	①運動に親しむ資質や能力の育成及び体力の向上を図る指導の充実 ②健康に関する知識を身に付け、積極的に健康な生活を実践できる指導の充実 ③食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができる指導の充実 ④安全に関する情報を正しく判断し、安全を確保することができる指導の充実	キ　基本的生活習慣（生活リズム）講演事業
			ク　栄養教諭による食の出前授業
	(5)生徒指導の充実	①運動に親しむ資質や能力の育成及び体力の向上を図る指導の充実 ②健康に関する知識を身に付け、積極的に健康な生活を実践できる指導の充実 ③食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができる指導の充実 ④安全に関する情報を正しく判断し、安全を確保することができる指導の充実	ケ　生活習慣改善による不登校対策事業
			コ　学級経営のための調査（Q-U、ASSESS）（三教研）
			サ　教育相談室運営（三教研）
			シ　不登校等連絡会議（三教研）
	(6)キャリア教育の推進	①立志科におけるキャリア教育指導体制の整備・充実 ②９年間を見通した将来の生き方指導・進路指導の充実 ③児童生徒の発達の段階に応じた勤労観・職業観の育成	ス　立志科推進事業補助金交付事業（再掲）
	(7)特別支援教育の充実	①校内特別支援体制の整備・充実 ②個別の教育支援計画の作成と活用による関係機関と連携した支援の充実 ③個別の指導計画の作成と活用による指導の充実 ④交流及び共同学習による相互理解の促進	セ　小中一貫教育チューター設置事業
			ソ　教育支援委員会（三教研）
			タ　教育支援委員会学習会（三教研）
			チ　特別支援教育コーディネート事業
	(8)環境教育の推進	①教科等間の関連を踏まえた指導の工夫 ②立志科における地域の環境の実態に即した指導の工夫 ③環境にかかわる体験的活動の充実	ツ　立志科推進事業補助金交付事業（再掲）

	(9)国際化に対応する教育の推進	①異文化に対する理解やそれを尊重する態度の育成 ②英語によるコミュニケーション能力の育成のため、ＡＬＴ（外国語指導助手）をはじめとするネイティブスピーカーを活用した英語科（小学校）の推進	テ　外国語指導助手（ＡＬＴ）招致事業
			ト　GTEC（英語４技能検査）
			ナ　小・中学生海外派遣事業（オンライン留学事業）
	(10)情報化に対応する教育の推進	①立志科を中心とした情報教育を推進する指導体制の整備・充実 ②学習指導におけるＩＣＴの適切な活用 ③家庭や地域社会と連携した情報モラルに関する指導の充実	ニ　ICT 情報教育支援員設置事業
			ヌ　三戸地方未来塾補助事業
			ネ　GIGA スクールサポート業務
	(11)安全・安心な学校環境づくりの推進	①学校警察連絡協議会等における情報交換や関係機関との連携・協力の推進 ②学校施設・設備保全の推進 ③防災・防犯等安全教育の充実	ノ　学校施設・設備整備
			ハ　日本スポーツ振興センター災害共済給付事業
			ヒ　児童生徒緊急搬送タクシー運行事業
	(12)教員研修の充実	①教員の資質の向上に関する指標を踏まえた研修の推進 ②日常的に学び合い、指導力を高め合う校内研修体制の整備・充実 ③学習指導要領、三戸町小中一貫教育要領に基づく実践的研究の充実 ④学校の教育課題解決のための実践的研究の充実 ⑤家庭や地域社会と連携した特色ある教育活動の研究・推進	フ　授業実践支援事業（三教研）
			ヘ　教育相談研修講座（三教研）
	(13)複式教育の充実	①学校運営・学級経営の創意工夫 ②複式指導の充実 ③複式授業研修の充実	ホ　学級経営のための調査（Q-U、ASSESS）（三教研）（再掲）
3 社会教育指導の重点	(1)学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成	①青少年の体験活動の充実 ②地域が支えるキャリア教育の充実 ③子どもの読書活動の充実 ④地域全体で子どもを育む活動の充実 ⑤家庭教育支援の充実	ア　さんのへ農業小学校支援事業
			イ　三戸町子ども会育成連絡協議会支援事業
			ウ　伝統芸能保存継承事業
			エ　ふれあい活動事業
			オ　放課後子ども教室推進補助事業
			カ　青少年健全育成三戸町民会議運営事業
			キ　三戸町少年指導センター運営事業
			ク　家庭教育学級開催事業
	(2)活力ある地域コミュニティの形成に向けた人財の育成	①地域活動の実践者の育成 ②地域活動の指導者、コーディネーターの養成 ③地域活動に関わる人財のネットワーク形成の支援	ケ　二十歳を祝う会成人式開催事業
			コ　三戸町人材活用講師派遣事業
			サ　ふれあい活動事業（再掲）
	(3)一人一人の主体的な学習と社会参加の推進	①関係機関との連携による多様な学習機会の支援 ②学習成果を生かした社会参加活動の支援	シ　公民館講座
			ス　公民館分館講座委託事業
			セ　三戸町歴史講座
			ソ　高齢者学級寿教室
			タ　子ども公民館講座
			チ　わくわく城山楽園体験スクール
			ツ　公民館まつり開催事業
	(4)社会教育推進のための基盤整備	①社会教育推進体制の充実 ②社会教育施設の機能の充実と活用の促進 ③社会教育関係職員の養成と資質の向上 ④社会教育関係団体等の活動の支援	テ　三戸町中央公民館管理運営
			ト　社会教育関係団体補助事業
			ナ　サークル活動への支援
			ニ　三戸町立図書館の運営
	(5)生涯スポーツの振興	①地域スポーツの推進 ②スポーツに関わる人財の養成と活用 ③スポーツ活動推進のための環境整備と活用の促進	ヌ　総合優勝制町内対抗スポーツ大会
			ネ　町民歩け歩け運動
			ノ　三戸町スポーツ賞表彰
			ハ　各種スポーツ大会補助事業
			ヒ　三戸町体育協会支援事業
			フ　スポーツ指導者の養成・活用
			ヘ　勤労者体育施設管理運営（武道館・サンスポ）
			ホ　スポーツ少年団の育成支援
			マ　体育館等管理運営（町民体育館・松原運動公園）
			ミ　アップルドーム管理運営
			ム　パークゴルフ場管理運営
			メ　町民プール管理運営
	(6)芸術・文化活動の充実と文化財の保存	①芸術・文化活動機会の充実 ②後継者育成支援、発表機会の充実 ③文化財の保存及び活用	モ　三戸町立版画工房運営
			ヤ　芸術文化団体等補助事業
			ユ　三戸町文化賞表彰
			ヨ　三戸城跡保存活用事業
			ラ　歴史民俗資料館運営
			リ　地域学習サポート事業
			ル　伝統芸能保存継承事業（再掲）
			レ　歴史講演事業

１．教育環境の整備促進等

（１）小中一貫教育体制の充実

〔ア〕　小中一貫教育推進委員会	
事業の概要	◆目的 　小中一貫教育を推進するための基本方針に関することやその他の事項について検討し、必要に応じその結果を教育長に提言する。 ◆事業費 　４６千円（財源　一般　４６千円）
実　績	◆第１回小中一貫教育推進委員会（令和５年３月３０日） （１）報告　令和４年度の小中一貫教育事業について （２）協議　令和５年度の小中一貫教育事業と推進体制について （委員）小中一貫教育推進アドバイザー、町内各学校長、三戸地方教育研究所指導主事
成果と課題	◆成果 ・学識経験者の指導助言により、検討課題とされた事項を改善することができた。 ・令和５年度の事業計画に対する承認と小中一貫教育推進体制を確認することができた。 ◆課題 ・教職員の負担を軽減しながら、小中一貫教育を推進していくために 、教科等の専門部会による協議を重ね、実施委員会による検討を踏まえ、推進委員会で方針を決定できるよう持続可能な推進体制と、課題解決に対する取り組みが必要である。
事業の方向性	継続 ○　拡充 ／　改善 ／　縮小

（２）就学支援等の充実

〔イ〕　要保護・準要保護児童生徒就学援助事業	
事業の概要	◆目的 　経済的に就学困難な児童生徒の保護者に対し、学用品費等を援助することにより、義務教育の円滑な実施を図ることを目的とする。 ◆事業費　１０，０３２千円（財源　国庫補助３６千円・一般９，９９６千円）
実　績	◆支給実績 （１）支給費目 　給食費、学用品費、新入学用品費、通学品費、医療費、校外活動費、修学旅行費 （２）認定状況

	小学校	中学校
要保護	１名	２名
準要保護	４７名	３４名
児童生徒に占める割合	１４．３％	１７．４％
支給額	４，９６１千円	５，０７１千円

成果と課題	◆成果 ・経済的困窮世帯の児童生徒の就学機会の確保及び保護者の経済的負担軽減につながっている。 ・今年度から卒業アルバム代等、オンライン学習通信費を対象経費として加えたことにより、前年度よりも保護者の経済的負担が軽減された。 ◆課題

	・特になし。				
事業の方向性	継続	○	拡充		
	改善		縮小		

〔ウ〕　特別支援教育就学奨励事業

事業の概要	◆目的 特別支援学級へ就学する児童生徒の保護者の経済的負担軽減のため、就学に必要な経費について一部を補助し、特別支援教育の普及奨励を図る。 ◆事業費　２７６千円（財源　国庫補助１３８千円・一般１３８千円）				
実　績	◆支給内容 （１）支給費目　学用品費、新入学用品費、修学旅行費、給食費、校外活動費 （２）支給人数　小学校５名、中学校２名　合計７名（要・準要保護、辞退者除く） （３）支 給 額　小学校　１７２，２０７円、　中学校　１０３，７９６円				
成果と課題	◆成果 ・特別支援学級在籍児童生徒の就学機会の確保及び保護者の経済的負担の軽減につながっている。 ◆課題 ・クレジットカード払いした学用品費について、提出書類（明細書等）の不備があり支給できないケースがある。				
事業の方向性	継続		拡充		学用品費等について､クレジットカードで支払う家庭が増えているため、クレジットカードで購入した際の提出書類（購入日、購入内容、購入者が分かるもの）について分かりやすく周知する。
	改善	○	縮小		

〔エ〕　奨学金貸与事業

事業の概要	◆目的 経済的に修学困難な青少年の修学機会の確保並びに有用な人材育成のための支援。 ◆基金総額　２４１，５３３千円 ◆事業費（貸与額）　１１，４７５千円 ◆事業費（償還額）　１５，０８８千円
実　績	◆令和４年度貸与人数及び貸与額（カッコ内は令和４年度新規採用者）

基金区分	貸与人数	貸与額
人材育成基金	１４名（　４名）	6,210,000円
高坂奨学基金	１０名（　４名）	3,615,000円
岩井堅三奨学基金	０名（　０名）	0円
佐藤義典奨学基金	３名（　３名）	1,650,000円
合　計	２７名（１１名）	11,475,000円

成果と課題	◆成果 ・経済的理由により修学困難な青少年の修学機会の確保につながっている。 ◆課題 ・固定した滞納者がおり、経済的な理由から継続的な奨学金返済が困難となっている。				
事業の方向性	継続	○	拡充		令和４年度に貸与月額の増及び返済期間の延長により、申請者の増につながった。
	改善		縮小		

〔オ〕　幼児教育無償化事業					
事業の概要	◆目的 　子ども・子育て支援新制度未移行の私立幼稚園に幼児を就園させている保護者の経済的負担の軽減を図るため保育料を無料とする（月額上限２５，７００円）。 ◆事業費　　実績なし				
実　績	◆事業費　　実績なし				
成果と課題	◆成果 ・実績なし ◆課題 ・特になし				
事業の方向性	継続	○	拡充		平成２７年度より町内私立幼稚園が子ども・子育て支援新制度に移行し、本事業の対象外となったため、平成２７年度から令和４年度に至るまで実績はない。 令和元年１０月から幼児教育無償化となり、新制度未移行の幼稚園は２５，７００円を上限として無償化の対象となっているため、次年度以降、町外私立幼稚園（新制度未移行）に幼児を就園させる保護者がある場合は随時対応する。
	改善		縮小		

〔カ〕　第三子以降子育て支援事業					
事業の概要	◆目的 　第三子以降の児童を養育する者に子育てサポート祝金を支給することにより、町の次代を担う児童生徒の健全な育成を支援し、児童福祉の推進を図る。 ◆事業費　３，５３０千円（財源　一般３，５３０千円）				
実　績	◆支給実績 （１）祝金種類 小・中学校給食費及び教材費支援金、高等学校教材費支援金 （２）支給状況 小学校（単価３５，０００円）　５２名　合計　１，８２０，０００円 中学校（単価４５，０００円）　２４名　合計　１，０８０，０００円 高　校（単価３０，０００円）　２１名　合計　６３０，０００円				
成果と課題	◆成果 ・年間に係る給食費や教材費の約半額を支給することにより、多子世帯の経済的負担軽減につながっている。 ◆課題 ・特になし				
事業の方向性	継続	○	拡充		
	改善		縮小		

（３）教育活動支援のための補助事業の充実

〔キ〕　全国大会等児童生徒派遣費補助事業	
事業の概要	◆目的 　体育活動及び文化活動の振興を通して、児童生徒の健全な育成を図ることを目的とし、学校教育活動における大会等へ参加する場合で、全国大会等に出場するための経費について補助金を交付する。 ◆事業費　　１４８千円（財源　一般１４８千円）

実　績	◆補助金交付状況 ・全農杯２０２２年全日本卓球選手権大会（三戸小）　１４７，５５０円
成果と課題	◆成果 ・大会へ参加することで、児童生徒の競技力向上や健全な育成につながるとともに、家庭の経済的な負担を軽減することができた。 ◆課題 ・特になし
事業の方向性	継続 ○　拡充　 改善　　縮小

〔ク〕　中体連等派遣費補助事業					
事業の概要	◆目的 体育活動及び文化活動の振興を通して、生徒の健全な育成を図ることを目的とし、学校教育活動における大会等へ参加するための経費について補助金を交付する。 ◆事業費　３，２４０千円（財源　一般３，２４０千円）				
実　績	◆補助金交付状況 ・三戸中学校　３，２４０千円				
成果と課題	◆成果 ・各種大会へ参加することで、競技力向上や生徒の健全な育成につながるとともに、家庭の経済的な負担を軽減することができた。 ◆課題 ・部活動の地域移行について段階的に進めていくことから、本補助金の対象となる大会や対象者についても再検討する必要がある。				
事業の方向性	継続	○	拡充		今年度、大会数はコロナ禍前と同等になった。次年度以降も体育活動及び文化活動の振興に資するため、事業を継続する。
	改善		縮小		

〔ケ〕　教育振興協議会支援事業	
事業の概要	◆目的 教育委員会、学校、地域の連携により、学校教育・社会教育の振興を図る。 ◆事業費　６０７，１５３円（財源　一般３１６，０００円　会費等２９１，１５３円）
実　績	◆教職員研修等に対する助成（総額１７３，７２８円） （１）校内外研修補助費 ・三戸小、斗川小、三戸中 （２）教育研究班事業助成 ・教務主任研修会、養護教諭研修会、学校事務研修会、授業交流会 ◆令和４年度子ども文化作品展の開催 ・開催日　令和４年１１月４日～６日 ・場　所　三戸町民体育館 ・内　容　児童生徒の芸術、文化教育振興のため子ども文化作品展を開催。 ◆令和４年度町長と語る会の開催 ・開催日　令和４年１２月１６日、２１日 ・場　所　三戸小・中学校 ・内　容　三戸小学校６年児童が町長と三戸町について語り合う会を開催。 ◆第５９号「三戸の教育」の発行（印刷製本費１４８，５００円） ◆幼保職員研修等に対する助成（総額６０，０００円） 幼保職員研修事業助成

	・三戸保育園、ミューズ保育園 ◆幼小連携交流会の開催 ・開催日　令和５年２月２０日 ・場　所　三戸町役場 ・内　容　町内の保育所、幼稚園、小学校等による意見交換会を開催。
成果と課題	◆成果 ・教職員研修、幼保職員研修では、各職員がそれぞれ学校運営、教育指導、保育指導に適した研修をし、職員の資質向上、現場における指導力の向上につながっている。 ・子ども文化作品展においては、出展作品数３９２点、来場者１，００９人となり、児童・生徒の文化的資質の向上が図られた。 ・町長と語る会においては、児童・生徒が町長と語り合うことで、ふるさとに対する意識や豊かなふるさとを創造していこうとする意欲の向上が図られた。 ・幼小連携交流会においては、これまでコロナ禍により開催できなかった交流会を開催することができ、意見交換による町内関係機関の連携強化が図られた。 ◆課題 ・学校数の減少により、行事等における各校からの協力人員の減少が課題。

事業の方向性	継続	○	拡充		
	改善		縮小		

〔コ〕　学校保健会補助事業	
事業の概要	◆目的 ①学校保健、学校安全に関する調査、研究の推進 ②地域保健に関する思想の普及啓発 ③児童、生徒の保健向上 ④学校保健、学校安全に関する講習会、発表会 ◆事業費　１００千円（財源　一般１００千円）
実　績	◆概要　〈講習会〉救急法実技講習会（職員・保護者対象）※テキスト配布（実技は中止） 〈調　査〉保健白書作成 〈啓　発〉児童生徒から保健標語募集・優秀作品を「広報さんのへ」に毎月掲載 〈会　報〉会報の発行
成果と課題	◆成果 ・児童生徒の健康調査の充実が図られた。 ・保健標語の募集を通じて、児童生徒の保健意識の高揚が図られた。 ◆課題 ・児童生徒の健康管理の充実を図るために、より効果的な調査活動を推進する必要がある。 ・学校数の減少により、学校保健会のあり方について検討する必要がある。

事業の方向性	継続	○	拡充		
	改善		縮小		

（４）その他教育行政の推進

〔サ〕　スクールバス等運行事業	
事業の概要	◆目的 遠距離児童生徒の通学手段確保を目的とし、通学バス・タクシーを運行する。 ◆事業費　４１，４６１千円（財源　国庫３９６千円・一般４１，０６５千円）
実　績	◆通学バス運行事業（小６４名、中４９名）

	（１）路線　①三戸小・三戸中目時地区（三戸中は登校のみ）１９名 ②三戸小貝守地区　３９名（うち松原１３名） ③斗川小豊川地区　４名 ④斗川小大舌地区　９名 ⑤三戸中貝守地区　２３名（うち松原９名） ⑥三戸中斗内地区　１９名 （２）運行回数　三戸小学校は年間２３７日、登校１回・下校２回（低学年・高学年） 斗川小学校は年間２３１日、登校１回・下校２回（低学年・高学年） 三戸中学校は年間２３８日、登校１回・下校１回 ◆通学タクシー運行事業（小７名、中９名） （１）路線　①三戸小・三戸中蛇沼地区　７名（小７名） ②三戸中目時地区（下校のみ）　７名 ③三戸中大舌地区　２名 （２）運行回数　通学バスに同じ
成果と課題	◆成果 ・事故なく、通学バス・タクシーが運行されており、遠距離通学児童生徒の通学の便宜と安全が確保されている。 ◆課題 ・今後も効率的かつ安全な運行方法について検討を継続していく。

事業の方向性	継続	○	拡充	
	改善		縮小	

〔シ〕　部活動バス・部活動支援バス運行事業	
事業の概要	◆目的 部活動における遠征時や学校行事等における移動を部活動バス、部活動支援バスで行うことにより、保護者の負担軽減を図る。 ◆事業費　部活動バス運行事業　４９５千円（財源　一般４９５千円） 部活動支援バス事業　１，２２７千円（財源　一般１，２２７千円）
実　績	◆運行回数及び乗車人数 （１）部活動バス　５９回　延べ８２８人 （２）部活動支援バス　１７回　延べ５８６人
成果と課題	◆成果 ・児童生徒の部活動や校外活動時の移動手段として有効活用され、児童生徒や保護者の負担軽減につながっている。 ◆課題 ・今後も効率的かつ安全な運行方法について検討し、児童生徒や保護者の負担軽減を図っていく。

事業の方向性	継続	○	拡充	
	改善		縮小	

〔ス〕　児童・生徒・教職員健康診断及び就学時健診	
事業の概要	◆目的 学校保健安全法に基づき､児童・生徒及び教職員の健康診断の実施と事後措置を行い、早期発見・早期治療を勧め、健康管理と健康保持促進を図り、学校教育の円滑な実施を図る。 ◆事業費　２，７８７千円（財源　一般２，７８７千円）

実　績	◆概要 （１）児童生徒健診　就学時健診　就学前児童　５０名 心電図検査　１年・４年・７年　１７４名 耳鼻科健診　全児童生徒　５３１名 眼科健診　全児童生徒　５３２名 歯科健診　全児童生徒　５３２名 内科健診　全児童生徒　５３２名 尿検査　全児童生徒　５２８名 貧血検査　５年・８年　１１６名 （２）教職員健診　定期健診　３１名 胃ガン検診　４０歳以上希望者　１０名 大腸ガン検診　４０歳以上希望者　９名 ストレスチェック　全教職員　６７名
成果と課題	◆成果 ・学校及び医療機関と綿密な連絡調整の下、全ての健診において円滑に実施することができた。 ◆課題 ・耳鼻科健診は医師の都合上１回のみの実施であり、全学校が１校に移動、集合して行うことから、行事調整や授業時数確保の面で学校側に大きな負担を強いている。

事業の方向性	継続	○	拡充		
	改善		縮小		

〔セ〕　学校評議員設置事業	
事業の概要	◆目的 地域に開かれた学校として、学校評議員を設置することにより、地域住民の意向等を把握し、より良い学校運営を推進することを目的とする ◆事業費　１２８千円（財源　一般１２８千円）
実　績	◆各校評議員組織 三戸小・中学校７人、斗川小学校４人 ◆開催日数 三戸小・中及び斗川小の評議員を以て組織する「三戸学園運営委員会」を３回開催。
成果と課題	◆成果 ・校長が学校評議員の意見を受け、学校運営の改善を図り、地域に開かれた学校づくり、特色ある学校づくりを推進することにつながった。 ・施設分離型の一貫校である三戸小・中と斗川小の関係者が一堂に会し、学園の運営方針について理解を深めるとともに、各評議員の意見を集約する機会となった。 ◆課題 ・特になし。

事業の方向性	継続		拡充		令和５年度から学校運営協議会(コミュニティ・スクール)を設置し、地域一体となって地域とともにある学校づくりを推進する。
	改善	○	縮小		

〔ソ〕　学習習慣形成事業（学習コーチ事業）	
事業の概要	◆目的 予習・復習のやり方、授業のノートの取り方、記憶法・読書法といった「勉強のやり方」や学習計画の立て方について、児童生徒向けの講演会等を実施し、能率的な学習方法を身につけ学習の習慣化を目指す。併せて教育委員会へのコンサルテーションを行い、

	小中一貫教育のより効果的に学力向上を図る。 ◆事業費　８００千円（財源　一般８００千円）
実　績	◆講演会等の実施（講師：株式会社プラスティー教育研究所　代表取締役　清水章弘様） （１）学習コーチ講演会の実施 勉強のやり方や学習計画の立て方に関する講演会の実施。 ア　実施日　令和４年７月２０日 場　所　小中一貫三戸学園三戸小・中学校　学習センター 対　象　小中一貫三戸学園三戸中学校　７年生６４名及び教員 内　容　学習コーチ講演会「勉強のやり方と学習計画の立て方」 予習・授業・復習・テストのサイクルに基づいた具体的な勉強方法や、授業における効果的なノートの取り方や記憶方法、日頃の学習で困っていることに対する具体的なアドバイスや、家庭学習や夏休みに取り組んで欲しい勉強方法や点数化した前向きな振り返りについて講演を行った。 イ　実施日　令和４年７月２０日 場　所　小中一貫三戸学園三戸小・中学校　学習センター 対　象　小中一貫三戸学園三戸中学校　８年生６５名及び教員 内　容　学習コーチ講演会「勉強のやり方と学習計画の立て方」 予習・授業・復習・テストのサイクルに基づいた具体的な勉強方法や、授業における効果的なノートの取り方や記憶方法、日頃の学習で困っていることに対する具体的なアドバイスや、家庭学習や夏休みに取り組んで欲しい勉強方法や点数化した前向きな振り返りについて講演を行った。 ウ　実施日　令和４年７月２０日 場　所　小中一貫三戸学園三戸小・中学校　放送室 対　象　小中一貫三戸学園三戸中学校　７・８年生１２５名 内　容　学習コーチ延長戦「合格へ道～給食時間の黙食を盛り上げよう」 ラジオ番組と同じ形式で放送室から生徒の悩みに答えた。「今から本気で勉強すれば東大に入れますか」などの質問に対して、「ドアに問題を書いた付箋を貼って、答えたら通れる『暗記ドア』などを試して」など、具体例で答え、聞くことに集中できる、黙食の時間を有効に活用しながら、生徒の悩みを解決した。 エ　実施日　令和４年１１月７日 場　所　小中一貫三戸学園三戸小・中学校　学習センター 対　象　小中一貫三戸学園三戸中学校　９年生６９名及び教員 内　容　９年生受検前学習コーチ「勉強のやり方と学習計画の立て方」 予習・授業・復習・テストのサイクルに基づいた具体的な勉強方法や、効果的なノートの取り方や記憶方法、学習計画の立て方と、受検勉強をする中で悩みや効果的な学習法法についてアドバイスを行った。 オ　実施日　令和４年１１月７日 場　所　小中一貫三戸学園三戸小・中学校　放送室 対　象　小中一貫三戸学園三戸中学校　９年生６９名 内　容　学習コーチ延長戦「合格へ道～給食時間の黙食を盛り上げよう」 ラジオ番組と同じ形式で放送室から生徒の悩みに答えた。「苦手な科目を克服するには」などの質問に対して、「普段の授業を大切にして、分からないことがあれば直接質問して」など答え、聞くことに集中できる、黙食の時間を有効に活用しながら、生徒の受検前の悩みを解決した。 （２）７年生進級前ガイダンスの実施（１回）

	学習や生活の大きな変化による「中１ギャップ」を生じる予備軍である６年生に対し、中学校からの学習習慣の形成に関するガイダンスを行うことにより、中学校進学時の不安や心理的段差を緩やかにすることで「中１ギャップ」を軽減した。 実施日　令和４年１１月７日 場　所　小中一貫三戸学園三戸小・中学校　学習センター 対　象　三戸小学校・斗川小学校の６年生６４名及び教員 内　容　「中学生からの勉強のやり方」 予習・授業・復習・テストのサイクルに基づいた具体的な勉強方法や、効果的なノートの取り方や記憶方法、学習計画の立て方について
成果と課題	◆成果 ・児童生徒が学習習慣を意識し、自ら主体的に学ぶ姿勢を身につけさせるための動機付けが促された。 ・中学生になる前の児童や、受検を控えた生徒に対して、勉強に対する不安を解消し、今、何をどのようにするべきかを示すことができた。 ・給食時間の黙食において、直接聞けないような質問をラジオ形式で答えたことで、抱えていた悩みを解決することができた。 ・７年生進級前ガイダンスの実施により、学習や生活の大きな変化による「中１ギャップ」を生じる予備軍である６年生の７年生進級前の不安や心理的段差を緩やかにし、進級への期待を増すことができた。 ◆課題 ・特になし。

事業の方向性	継続	○	拡充	
	改善		縮小	

〔タ〕　学習習慣形成事業（探究コーチ事業）	
事業の概要	◆目的 勉強したことが社会でどのように活かされているのかを探究し、勉強に興味が持てるよう「勉強する意味」について講演会を実施し、児童生徒の学習意欲を各教科の興味関心へつなげることを目指す。 ◆事業費　５００千円（財源　一般５００千円）
実　績	◆講演会等の実施（講師：株式会社プラスティー教育研究所　安原和貴様） （１）探究コーチ講演会の実施 海洋汚染や地球温暖化、フードロスなど身近な問題から勉強する意味を見いだし、各教科へつなげるよう知識を深め、勉強に関する興味関心につなげる探究学習を行った。 ア　実施日　令和４年９月１日 場　所　小中一貫三戸学園三戸小・中学校　学習センター　（オンライン） 対　象　小中一貫三戸学園三戸中学校　７年生６４名及び教員 内　容　探究コーチ講演会　立志科「勉強する意味」を探究学習で学ぶ イ　実施日　令和４年９月１日 場　所　小中一貫三戸学園三戸小・中学校　学習センター　（オンライン） 対　象　小中一貫三戸学園三戸中学校　８年生６０名及び教員 内　容　探究コーチ講演会　立志科「勉強する意味」を探究学習で学ぶ ウ　実施日　令和４年９月８日 場　所　小中一貫三戸学園三戸小・中学校　学習センター　（オンライン） 小中一貫三戸学園斗川小学校　５年生教室　（オンライン）

	対　象　小中一貫三戸学園三戸小学校　５年生６１名及び教員 小中一貫三戸学園斗川小学校　５年生６名及び教員 内　容　探究コーチ講演会　立志科「勉強する意味」を探究学習で学ぶ エ　実施日　令和４年９月８日 場　所　小中一貫三戸学園三戸小・中学校　学習センター　（オンライン） 小中一貫三戸学園斗川小学校　６年生教室　（オンライン） 対　象　小中一貫三戸学園三戸小学校　６年生５７名及び教員 小中一貫三戸学園斗川小学校　６年生７名及び教員 内　容　探究コーチ講演会　立志科「勉強する意味」を探究学習で学ぶ オ　実施日　令和４年９月１８日 場　所　小中一貫三戸学園三戸小・中学校　学習センター　（オンライン） 対　象　小中一貫三戸学園三戸中学校　９年生７１名及び教員 内　容　探究コーチ講演会　立志科「勉強する意味」を探究学習で学ぶ カ　実施日　令和５年２月２日 場　所　青森県立三戸高等学校　理科室 対　象　三戸高等学校　１年生２３名及び教員 内　容　探究コーチ講演会　形が想いを伝えるSDGsワークショップ SDGsをテーマに自分の想いを形にするワークショップでは、ブロック玩具を活用し、SDGsや地域の未来について考え、自分の考えや気持ちを表現する経験や、まずは行動してみることが大切だという体験をすることができた。
成果と課題	◆成果 ・身近な環境問題等から意見を出し合い、様々な考え方を理解しながら、その感想を２００文字で表現する小論文の手法を学び国語の知識を深めることができた。 ・海洋汚染や地球温暖化などの直面している課題が、現在学んでいる理科や社会などと大きく関係していることを知り、各教科の興味関心へつなげることができた。 ・ブロック玩具を使い、自分の想いを形にする作業から、個人で形にしたもを全体に広げた際に無限の可能性が創り出されることを知り、まずは行動してみることの大切さを学ぶことができた。 ◆課題 ・オンラインでの開催が多かったことから、今後は対面でより効果的な開催計画が必要である。
事業の方向性	継続 ○　拡充　 改善　　縮小

〔チ〕　三戸町立学校給食共同調理場運営	
事業の概要	◆目的 学校給食が児童及び生徒の心身の健全な発達に資するものであり、かつ、児童及び生徒の食に関する正しい理解と適切な判断力を養う上で重要な役割を果たすものであることにかんがみ、学校給食及び学校給食を活用した食に関する指導の実施に関し必要な事項を定め、学校給食の普及充実及び学校における食育の推進を図る。 ◆事業費 特別会計（給食材料費）　３１，９４３千円（財源　保護者等負担） 一般会計（共同調理場運営費）　４８，７６５千円（財源　一般４８，７６５千円）
実　績	◆概要 児童生徒及び教職員等６１３名の給食対象者に対し、１９７日間、児童６１，５７２食、

	生徒３３，７７０食､教職員等１５，２９７食､合計１１０，６３９食の完全給食を提供した。
成果と課題	◆成果 ・食の出前授業や教育現場の先生方による給食指導を行っている。 ・SDGsの観点から各学校のクラス毎に給食量のアンケート調査を実施し、汁物の量を調整した結果、残食を減らすことができた。 ・三戸小学校１年生の施設見学を受け入れたことにより、児童が給食を完食するなど、給食に対する感謝の心が育まれている。 ◆課題 ・平成１３年の調理場の建設から２０年以上が経過し、施設・設備や調理機器の経年劣化による故障が増えている。修繕では対応が難しいものもあり、計画的な機器更新が必要である。 ・海藻類、根菜類を使用した料理の残食量が多いため、食の指導等を通じて残食量軽減に取り組む必要がある。 ・小麦粉や大豆などの主原料や原油価格の高騰、昨今のウクライナ情勢や急速な円安の進行などの影響による製造コスト・輸送コストの上昇などにより、あらゆる食品が値上げとなっており、保護者等から負担していただいている給食費の中から児童生徒に様々な食材を使用した給食を提供することが厳しい状況である。

事業の方向性	継続	○	拡充		
	改善		縮小		

〔ツ〕　三戸高等学校との連携推進（魅力化推進事業補助金）

事業の概要	◆目的 　三戸町内全ての小中学校と連携協定を締結した、町内唯一の県立高校で、郡内唯一の普通高校である三戸高等学校の魅力化を町として支援し、小中高12年間の接続を強みとした連携を推進するとともに、ＰＴＡが行う生徒にとって魅力ある学校づくりに資する各種事業に対し、補助金を交付する。 ◆事業費　　３，０００千円　（財源　一般３，０００千円）
実　績	◆補助金の交付 （生徒の資格取得支援）707,200円 英語検定：３級１４名、準２級２１名、２級７名 漢字検定：３級１０名、準２級２５名、２級１０名 全商簿記実務：３級１６名、２級１７名、会計１５名 全商珠算・電卓実務検定：３級（普）２０名、３級（ビ）１９名、２級（普）１５名、２級　（ビ）１５名、　１級（普）１３名、１級（ビ）１５名 全商ﾋﾞｼﾞﾈｽ文書：３級２８名、３級速度３１名、２級１７名、２級速度２０名、１級８名 全商情報処理検定：３級２８名、２級１９名、１級５名 全商電卓技能検定段位：４名 高等学校家庭科技術検定（食物調理）：４級１７名 延べ人数４０９名 （受検者数/全校生徒）　H30:310/152・R1:354/134・R2:344/116・R3:277/114・R4:409/88 （遠距離通学者支援）771,945円 鉄道：剣吉～三戸１２名、苫米地～三戸３４名、八戸～三戸２名、目時～三戸４名 バス：田子～六日町５名、サンモール田子～六日町３名、田子町役場～六日町１２名、

<table>
<tr><td></td><td colspan="5">自家用車：目時～学校１名、西越～学校１名、蛇沼～学校１名
延べ人数７５名

（生徒の進路達成支援）670,705円
スタディサプリ：８９名
進学支援図書購入費補助

（部活動振興事業）850,150円
春季大会及び高総体並びに新人戦生徒宿泊費補助
高総体バス借り上げ代補助
ソフトテニス部中高合同講習会費補助</td></tr>
<tr><td>成果と課題</td><td colspan="5">◆成果
・資格取得費を助成したことで、受検に挑戦する生徒が増加し、資格取得に対する意欲が高まった。
・進路達成に向けた支援や部活動の振興を支援をしたことで、生徒の勉強や部活動への意欲を引き上げ、活動に係る経費を支援することができた。
・町外から通う生徒の通学費を助成したことで、町外から三戸高等学校へ進学する魅力化を推進することができた。
◆課題
・町内から通学する生徒にとっても魅力ある通学支援制度にするため、学校までの距離による一定額の支援方法に変える必要がある。
・町内外の中学生に対して、支援内容の周知と学校の魅力を発信する必要がある。
・資格取得支援を将来的に役立つような資格も含める必要がある。
・進路達成支援のスタディサプリは使用していない生徒も見受けられることから、進学を希望する生徒を対象とした個別カリキュラムを提供しているサポートに変更する必要がある。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">事業の方向性</td><td>継続</td><td></td><td>拡充</td><td>○</td><td rowspan="2">資格取得や通学支援、部活動振興や進路達成支援など、生徒にとって魅力ある支援策を検討しながら、併せて生徒の全国募集に向けた周知活動を実施していく。</td></tr>
<tr><td>改善</td><td></td><td>縮小</td><td></td></tr>
</table>

２．学校教育指導の重点

（１）小中一貫教育の推進

〔ア〕　三戸町学校教育研究大会					
事業の概要	◆目的 町の教育方針や小中一貫教育に関する概要を示すことで、教職員が一丸となって小中一貫教育を推進する機運を醸成する。 ◆事業費　０千円				
実　績	◆概要 （１）日程：令和４年４月２２日（金） （２）場所：小中一貫三戸学園三戸小・中学校　第２体育館 （３）対象：町内全教職員 （４）内容：①三戸町教育基本方針について（慶長教育長） ②三戸町小中一貫教育について（櫻井事務局長） ③三戸町独自教科立志科について（村林指導主事） ④社会教育における主要事業紹介（中山生涯学習推進監） ⑤国史跡三戸城跡について（野田総括主幹）				
成果と課題	◆成果 ・町内の小中学校の教員が対面で参加したことで、令和４年度における三戸町の教育の方向性を示すことができた。 ・令和４年３月に三戸城跡が国史跡登録され、歴史遺産を紹介することができた。 ◆課題 ・小中一貫について先進的な取り組み事例を紹介できる講師を招いた講演会も必要である。 ・小中一貫教育専門部会も併せて開催できればより効果的な教育研究大会となる。 ・独自教科である立志科の取り扱いについて継続した説明が必要である。				
事業の方向性	継続	○	拡充		町内の全教職員が一堂に会することで、教育委員会の重点施策や教育活動を理解する機会と捉え、内容の充実を図りながら継続する。
	改善		縮小		

〔イ〕　特色ある教育活動推進事業（三戸地方教育研究所）					
事業の概要	◆目的 三戸町・田子町が個々に抱えている教育課題を解決するため、各町が行う特色ある教育活動や教員研修並びに教育推進研究の支援を通し、当該教育課題に資する。 ◆事業費　１６０千円（三戸町分）				
実　績	◆津村　柾広　氏　におけるセミナー　「夢の授業」（８学年対象） ◆小中一貫教育活動推進のための記録集の作成（三戸学園全保護者及び地域の方々対象） ◆木材利用に関する講演及び端材を利用したワークショップ　（７学年対象）				
成果と課題	◆成果 ・二町の各校の特色ある教育活動のために利用することができた。 ◆課題 ・二町の各学校で利用できるように、来年度も引き続き周知徹底する。				
事業の方向性	継続	○	拡充		
	改善		縮小		

〔ウ〕　小中乗り入れ授業実施	
事業の	◆目的

概要	三戸町小中一貫教育要領に定める教科の指導にあたり、中学校の教員が５、６年生に対して、専門性を活かした授業を行い、教科への興味や関心を高めるとともに、ティームティーチングにより、児童の状況に応じて授業進める先生と、個別対応する先生と役割分担をし、きめ細かく行き届いた指導を目指す。 ◆事業費　０千円
実　績	◆三戸小中学校においては、学年や教科により下表のとおり実施。

学年	教科	週あたり時間数	指　導　の　形　態
５	音楽	１．５	ほぼ全ての授業で、中学校の音楽科教員が専科指導し、指導内容により、学級担任が個別対応する。
	図工	１．５	ほぼすべての授業で、単元により中学校の美術科教員と技術科教員が専科指導し、指導内容により、学級担任が個別対応する。
	体育	２．５	ほぼすべての授業で、中学校の保健体育教員が専科指導し、指導内容により、学級担任が個別対応する。
６	音楽	１．５	ほぼ全ての授業で、中学校の音楽科教員が専科指導し、指導内容により、学級担任が個別対応する。
	図工	１．５	ほぼすべての授業で、中学校の美術科教員が専科指導し、指導内容により、学級担任が個別対応する。
	算数	２	小学校の教員が授業を進め、中学校の数学科教員がＴ２としてサポートする。
	体育	２．５	ほぼすべての授業で、中学校の保健体育教員が専科指導し、指導内容により、学級担任が個別対応する。
	英語	要望時	小学校の教員から、専門的な英語指導を要望された場合に、中学校の英語科教員がサポートする。

◆斗川小学校においては、三戸中学校の英語科教員による６年生への指導を各月１回、計１２回実施した。

成果と課題

◆成果

・５、６年生にとっては、中学校教員が専門性を活かして授業に参加したことにより、教科に対する興味や関心が湧いた様子が窺えた。
・特に技能教科では、指導内容の連続性が担保されたり、教材選択の工夫がしやすかったりと、効果的な教員の指導や児童生徒の理解につながっている。
・小学生の段階から中学校教員と交流することでスムーズな進学(進級)につながっている。
・小中の教員にとっては、相互に指導内容における９年間の系統性を、児童生徒の様子を見ながら指導できた。
・小中の教員が、授業で接することで児童生徒の情報交換や、学習展開についての協議等が行われることで、協働意識が芽生え、組織的な教育活動の充実につながっている。
・５、６年生が中学校教員による乗り入れを楽しみにしている。
・中学校教員の専科指導により、小学校教員の負担軽減につながっている。

◆課題

・中学校から小学校への乗り入れ授業の内容（教科・頻度）は、中学校教員の配置（所持免許）に左右される。また、乗り入れ授業を担当する中学校教員の負担軽減（持ち時間数、校務分掌内容等）を考慮する必要がある。
・授業サポートとして中学校から小学校への乗り入れについては効果的に行われているが、役割分担を明確にしたティームティーチングを行う場合には、事前の打ち合わせ

	や事後の振り返りをする必要がある。 ・小学校から中学校への乗り入れ授業が実施できていない。 ・乗り入れ授業を行うことで、教員の加配が行われているが、ティームティーチングによる指導が展開されず、中学校の専科教員のみ対応している場合がある。

事業の方向性	継続	○	拡充		各教科部会等においてティームティーチングによる役割分担を明確にし、授業の質の向上と教員の負担軽減に努めるとともに、より効果的な乗り入れ授業の実践に努める。
	改善		縮小		

〔エ〕　小中一貫教育支援特別講師設置事業	
事業の概要	◆目的 　小中一貫教育における中学校から小学校への乗り入れ授業や、不登校傾向や発達障害の疑いのある生徒に対する生徒指導の充実のため、小中一貫教育支援特別講師を設置する。 ◆事業費　７，５１５千円（財源　一般７，５１５千円）
実　績	◆配置状況（全３名） 三戸中学校３名（英語科、数学科、生徒指導の各１名）
成果と課題	◆成果 ・ティームティーチング、習熟度別等のクラス分けによる少人数指導、一斉授業における個別指導、生徒指導を行ううえで特別な配慮を要する生徒への支援など、ニーズに応じたきめ細やかな教育活動を展開することができた。 ◆課題 ・生徒間の習熟度に大きな開きがあり、一斉授業では指導しきれない部分について、教諭と特別講師の役割を明確にし、下位の底上げと上位の伸展につながるような活用方法を更に工夫する必要がある。

事業の方向性	継続	○	拡充		令和５年度は英語科や数学科の免許を有する講師を継続して任用し、小中一貫教育の充実を図る。また、生徒指導を行う講師により、増加傾向が見られる不登校の児童生徒に対する指導の充実を図る。
	改善		縮小		

（２）授業の充実

〔オ〕　授業技術研修講座（三戸地方教育研究所）	
事業の概要	◆目的 　効果的な授業技術について研修し､児童生徒が主体的に学ぶ力を身につけられるよう、教職員の資質向上と授業改善の推進に資する。 ◆事業費　４４千円
実　績	◆授業技術研修講座Ⅰ（小学校外国語科・外国語活動の授業の在り方） 講師　東京学芸大学　教職大学院　教授　粕谷　恭子　氏 対象　三八管内小中教職員 参加者３３名（集合１８名　オンライン１５名　うち三戸町９名） ◆授業技術研修講座Ⅱ（授業におけるICT活用）（オンライン） 講師　青森県総合学校教育センター　義務教育課　指導主事　時村　陽一 指導主事　松尾　和明 実践発表　南部町立名川南小学校　教頭　種市　吉武 田子町立田子中学校　教諭　金田一　大輔 三戸町立三戸中学校　教諭　中村　良一 対象　２町教職員

	参加者５４名（集合４０名　オンライン１４名　うち三戸町４０名）
成果と課題	◆成果 ・今年度はオンラインと集合形式による研修を行い、多数の先生方に参加いただくことができ、内容について有意義であったとの多くの好評を得た。実際にICT機器を使って試してみたいという感想もあった。 講座Ⅰ（小学校の外国語についての研修） 講座Ⅱ（実践発表型式で実施） ◆課題 ・ＩＣＴの研修については、受講する先生方のニーズの違いや技能の差があるので、研修内容の工夫が必要である。実際にＩＣＴ機器を使って試す、という内容になるとオンラインの併用は難しい。

事業の方向性	継続	○	拡充		
	改善		縮小		

（３）立志科の充実

〔カ〕　立志科推進事業補助金交付事業	
事業の概要	◆目的 独自の教科である「立志科」により心豊かでたくましい児童生徒を育むため、各学校が地域に根ざした教育活動を推進するための事業に対し補助金を交付する。 ◆事業費　　４８２千円（財源　一般４８２千円）
実　績	◆事業概要 （１）補助対象となる事業内容 自然環境や環境問題に関する体験を取り入れた教育活動 自然体験や社会奉仕体験を取り入れた教育活動 郷土理解に関わる体験を取り入れた教育活動 勤労生産・職業体験を取り入れた教育活動 上記を取り入れて行う、幼児・高齢者・障害者・外国人等や他校種等との交流活動 （２）各学校の活動内容

三戸小学校（２５０千円）	斗川小学校（１７０千円）
伝統食文化体験	畑作花き体験
伝統料理体験	稲作体験
昔の遊び体験	獅子舞伝承
福祉体験	日本文化体験
伝統芸能の伝承	郷土料理作り体験
英会話体験	魚の飼育、観察

三戸中学校（６２千円）
職場体験活動 コーチングセミナー

成果と課題	◆成果 ・立志科を通じて身につけさせたい１０の能力(自己を律する力、自己を啓発する力、他者を受容する力、仲間づくりをする力、集団生活で協力する力、規範を尊重する力、伝統文化や自然環境を理解する力、文化的活動を企画運営する力、社会的役割を遂行

	する力、将来設計をする力)の涵養(かんよう)につながった。 ・地域の方々とのふれあいを通じて、地域の学校支援意識の向上につながった。 ・地域に伝わる伝統・文化の継承の一助となっている。 ◆課題 ・コロナ禍等により計画した活動が行えない場合は、早めに事業計画の変更を行うなど、目的が達成できるよう働きかける。

事業の方向性	継続	○	拡充		
	改善		縮小		

（４）体育健康教育の充実

〔キ〕 基本的生活習慣（生活リズム）講演事業	
事業の概要	◆目的 児童生徒の生活習慣改善よる不登校要望対策を目的に「ヘルスプロモーティングスクール」を開催することで、自分の睡眠時間等を見直し、健康づくりを意識することで生活リズムの向上に取り組む機運を醸成する。 ◆事業費　０千円
実　績	◆睡眠調査をベースに児童向けのヘルスプロモーティングスクールを実施。 ２月２８日（火）　斗川小学校４・５・６年生１８名及び教教員『睡眠調査から実践する健康づくり』 ３月　２日（木）　三戸小学校４年１組２８名及び教職員『睡眠調査から実践する健康づくり』 ３月　９日（木）　三戸小学校４年２組３０名及び教職員『睡眠調査から実践する健康づくり』
成果と課題	◆成果 ・生活習慣の改善から不登校を予防することを目的に実施しており、すぐに成果として見えにくいため、睡眠調査を基に継続した健康づくりが実践できるよう支援するもの。 ◆課題 ・睡眠調査を実施した全学年(４～９年生)を対象にヘルスプロモーティングスクールを開催できていなことから、新年度も継続して保健体育等の授業で「健康」を扱う単元で実施できるよう学校側と調整が必要である。

事業の方向性	継続	○	拡充		生活リズムの考え方が浸透してきたことから、養護教諭や保健体育科教諭と相談しながら、町の保健師や管理栄養士とともに体の健康づくり(ヘルスプロモーション)が実践できるよう検討する。
	改善		縮小		

〔ク〕 栄養教諭による食の出前授業	
事業の概要	◆目的 子どもたちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるよう学校における食育の一層の充実を図るため、栄養教諭による児童生徒への食に関する授業を実施する。 ◆事業費　０円
実　績	◆１５回実施 三戸小学校９回、斗川小学校３回、三戸中学校３回
成果と課題	◆成果 ・授業実施後は給食を残さないで食べるようになったり、食の楽しさや食の大切さを理解している様子が感じられ、食に関する意識の向上が顕著に見られた。

	◆課題 ・食に関する正しい習慣や知識を習得させるには継続した活動が必要である。 ・食の出前授業内容を設定する際に、家庭や地域の生活スタイルや食環境の実態及び課題を明確にする必要がある。

事業の方向性	継続	○	拡充		
	改善		縮小		

（５）生徒指導の充実

〔ケ〕　生活習慣改善による不登校対策事業	
事業の概要	◆目的 中１ギャップを生じる予備軍である中等部から高等部の児童生徒を対象に、生活習慣や睡眠の実態等の調査をタブレット端末から入力し、ＡＩアプリによる調査結果について分析し、個に応じた具体的な改善方策が示されることで、生活リズムを見直す機会を提供する。 ◆事業費　１５４千円（財源　一般１５４千円）
実　績	◆事業概要 （１）調査期間 令和４年７月１日～１４日の２週間 （２）調査対象児童生徒 町内４年生～９年生　３８９名（うち評価対象者３３６名） （３）調査方法 学校の１人１台端末、家庭のパソコン・タブレット・スマートフォンから、Ｗｅｂのみんいくａｉアプリにアクセスして情報を入力。 （４）評価及びフィードバック ＡＩアプリによる結果とコメントのフィードバック及び、データを学校へもフィードバック。 ※ＡＩ評価医師 熊本大学名誉教授、日本眠育推進協議会理事長 三池輝久氏（小児科）
成果と課題	◆成果 ・自らの生活リズムを可視化することによる生活改善への意識付けや、医学的見地からの助言による行動の改善につながっている。 ・記録をＷｅｂ上で行ったことにより、経費の削減と関係者の負担軽減につながった。 ◆課題 ・現に不登校傾向にある生徒を中心に記録が行われなかったため、家庭の協力を得ながら記録を促す工夫が必要。 ・養護教諭も同じような調査を実施していることから、協働した取り組みが必要である。

事業の方向性	継続	○	拡充		タブレット端末から自分の状況を確認することはできるが、健康づくりの実践へつながっていないことから、講演事業での啓発も併せて展開していく必要がある。
	改善		縮小		

〔コ〕　学級経営のための調査（Q-U、ASSESS）（三戸地方教育研究所）	
事業の概要	◆目的 学級の状態を把握するための調査「hyper-QU」・「Q-U」を三戸小中学校で実施、「ASSESS」を斗川小で実施し、活用を促すことにより児童生徒理解に基づいた生徒指導、より良い学級経営の実現に資する。

	◆事業費　６３１千円（うち三戸町分４２９千円）
実　績	◆　１回目　５月「hyper-QU」　対象　三戸小中学校 ２回目１０月「Q-U」　対象　三戸小中学校 １回目　５月「ASSESS」　対象　斗川小学校 ２回目１０月「ASSESS」　対象　斗川小学校
成果と課題	◆成果 「hyper-QU」では、学級の満足度尺度、個人の生活意欲尺度、ソーシャルスキル、学力とのクロス集計など、教師用の詳細な分析データと児童生徒用個人票が送付され、各学校で活用していただいている。また、２回目の「Q-U」の結果と比較し、各学級の変容をとらえ、指導を行うことができた。いじめや不登校の未然防止の資料としても活用できる部分が多い。 「hyper-QU」「Q-U」では学級集団の中で児童生徒の満足度を測るものであり、小規模校の実態に合わないということから、斗川小学校では「ASSESS」を行った。「ASSESS」は児童生徒が学校環境にどれだけ適応しているのかを測るもので、個人の現状や変容が捉えやすい。 ◆課題 すべての学級の結果の分析について、校長または教頭に情報提供する必要がある。

事業の方向性	継続	○	拡充	
	改善		縮小	

〔サ〕　教育相談室運営（三戸地方教育研究所）

事業の概要	◆目的 三戸地方に在住するおおむね１８歳以下の児童・生徒の教育に関して、家庭や学校及びその他からの相談に応じて必要な助言指導を行い、不登校など課題解決の援助を図る。 ◆事業費　０千円
実　績	◆事業概要 （１）教育相談のべ件数　１２件 実相談人数　４名（うち三戸町：小１名、中０名、高０名） （２）適応指導のべ件数　４４件 実指導人数　４名 （３）電話相談件数　１６件
成果と課題	◆成果 今年度は、適応指導教室の利用が４名あり、そのうち１名は再登校することができた。 ◆課題 前述した生徒以外にも、不登校傾向の児童生徒がいるが、適応指導教室の利用はないので、学校とも連携して引き続き取り組んでいく。 職員で対応できなくなった場合の対処方法として、専門の相談員に依頼した場合の予算を確保している。今年度は利用しなかったが、引き続き準備しておく必要がある。

事業の方向性	継続	○	拡充	
	改善		縮小	

〔シ〕　不登校等連絡会議　（三戸地方教育研究所）

事業の概要	◆目的 不登校となっている児童生徒の事例について専門的知識を有する講師から対応の仕方などについて指導助言を受けることにより、児童生徒の指導の改善と不登校の解消を図る。また、小中学校の不登校児童生徒の情報を共有することにより小中学校が連携した

	指導の実現を図る。 ◆事業費　　１３千円 （講師の旅費等については青森県学校教育センターの事業を活用）
実　績	◆事業概要 （１）会議：年間４回の開催 ①第１回目：小中学校の不登校について情報交換 ②第２回目～第３回目：各校の事例に応じた個別相談 ③第４回目：各校の事例報告及び相談会 （２）対象：三戸地方の不登校児童生徒の指導にかかわる教職員 （３）参加人数　１回目：６名　　２回目：２名　　３回目：４名　　４回目：５名 （４）講師：小原　寛　（三八教育事務所スクールソーシャルワーカー） 佐藤　幸広（青森県総合学校教育センター教育相談課　指導主事） 葛西　励　（青森県総合学校教育センター教育相談課　指導主事） 根城　亮輔（青森県総合学校教育センター教育相談課　指導主事） （５）不登校等連絡会議での相談件数・事例報告された件数（人数） 小学生　５件（　２名）　　（うち三戸町：０件（０名）） 中学生１３件（　９名）　　（うち三戸町：６件（５名）） 合計　１８件（１１名）　　（うち三戸町：６件（５名））
成果と課題	◆成果 第２回、第３回、第４回には、直接県総合学校教育センター指導主事と詳細について話し合い、助言指導をいただくことができた。 ◆課題 児童生徒の家庭環境が複雑で、学校側だけでは、解決につながりそうにないケースなどは、SSWやSC、保健師、民生委員など各関係機関と連携をとって対処する必要がある。

事業の方向性	継続	○	拡充	
	改善		縮小	

（６）キャリア教育の推進

〔ス〕　立志科推進事業補助金交付事業　（再掲・立志科の充実と関連）	
事業の概要	◆目的 独自の教科である「立志科」により心豊かでたくましい児童・生徒を育むため、各学校が地域に根ざした教育活動を推進するための事業に対し補助金を交付する。 ◆事業費　　４８２千円（財源　一般４８２千円）
実　績	◆事業概要 （１）補助対象となる事業内容 自然環境や環境問題に関する体験を取り入れた教育活動 自然体験や社会奉仕体験を取り入れた教育活動 郷土理解に関わる体験を取り入れた教育活動 勤労生産・職業体験を取り入れた教育活動 上記を取り入れて行う、幼児・高齢者・障害者・外国人等や他校種等との交流活動 （２）各学校の活動内容

三戸小学校 （２５０千円）	斗川小学校 （１７０千円）
伝統食文化体験 伝統料理体験 昔の遊び体験	畑作花き体験 稲作体験 獅子舞伝承

福祉体験 伝統芸能の伝承 英会話体験	日本文化体験 郷土料理作り体験 魚の飼育、観察

三戸中学校 （６２千円）
職場体験活動 コーチングセミナー

成果と課題	◆成果 ・立志科を通じて身につけさせたい１０の能力(自己を律する力、自己を啓発する力、他者を受容する力、仲間づくりをする力、集団生活で協力する力、規範を尊重する力、伝統文化や自然環境を理解する力、文化的活動を企画運営する力、社会的役割を遂行する力、将来設計をする力)の涵養につながった。 ・地域の方々とのふれあいを通じて、地域の学校支援意識の向上につながった。 ・地域に伝わる伝統・文化の継承の一助となっている。 ◆課題 ・コロナ禍等により計画した活動が行えない場合は、早めに事業計画の変更を行うなど、目的が達成できるよう働きかける。

事業の方向性	継続	○	拡充		
	改善		縮小		

（７）特別支援教育の充実

〔セ〕　小中一貫教育チューター設置事業	
事業の概要	◆目的 発達障害を含む教育上特別の支援を必要とする児童生徒一人一人の教育的ニーズに対応した適切な支援を行うため、小中一貫教育チューターを設置する。 ◆事業費　１３，２１４千円（財源　一般１３，２１４千円）
実　績	◆配置状況（全６名） 三戸小・中学校５名　斗川小学校１名
成果と課題	◆成果 ・教育上特別な支援を要する児童生徒に対し、個に応じた学習活動上のサポートを行い、円滑な教育活動が展開できた。 ◆課題 ・特別な支援を要する児童生徒の数が増加傾向にある中、配置によるメリットを最大化できるよう職分を明確化し、組織的な支援体制を構築することが必要。

事業の方向性	継続	○	拡充		
	改善		縮小		

〔ソ〕　教育支援委員会（三戸地方教育研究所）	
事業の概要	◆目的 三戸町および田子町の特別な支援を要する幼児・児童・生徒の適切な就学指導をすすめるとともに、特別支援教育の推進及び就学指導態勢の充実を図る。 ◆事業費　３７８千円（負担割合で按分　三戸町分…　２５７千円　６８％）
実　績	◆(１)会議　事務説明会（１回）教育支援専門委員会（４回）教育支援委員会（４回）

（２）審議状況（三戸町分）

	通常学級在籍		特別支援学級在籍		令和５年度
	小学生	中学生	小学生	中学生	新入学児童
審査対象者	１８	0	１１	0	１１
特別支援学校判定者	6	0	1	0	0
特別支援学級判定者	0	0	8	0	1
通級指導判定者	9	0	1	0	3
通常学級判定者	3	0	1	0	7

（３）交流学習会・・・中止

成果と課題

◆成果

特別支援学校の先生方の助言をいただきながら、慎重な審議により、児童生徒の適正就学について答申を行い、有効と思われる支援方法についても協議することができた。

◆課題

・知能検査結果の取り扱いについて、教育支援委員の理解をはかり、適切に保護者や学校に説明できるようにしなければならない。

・将来の進路を見据えた教育課程の編成をしなければならない。

・通級指導教室における自立活動が、対象児童に対して有効に行われるために、「個別の指導計画」及び個別の支援計画の整備と活用が必要である。

事業の方向性

継続	○	拡充	
改善		縮小	

〔タ〕　教育支援委員会学習会（三戸地方教育研究所）

事業の概要

◆目的

個別の指導計画及び個別の支援計画の作成と活用方法について学習することにより、特別支援教育に対する理解を深め、１人１人の教育的ニーズに応じた適切な教育的支援の在り方を研修する。

◆事業費　１９千円

実　績

◆内容　「ＷＩＳＣ－Ⅳなどの諸検査とその解釈の仕方」

講師　　臨床心理士　石岡　れい子

対象　　三八管内特別支援教育担当者、教職員ほか

参加者　５５名（集合１７名　オンライン３８名　うち三戸町１０名）

成果と課題

◆成果

受講した先生方からは、「検査の解釈、結果方向について勉強になった。」「具体的な支援例が大変参考になった。」などの感想をいただき、大変好評であった。特別支援学級担当の先生方にとって有意義な学習会となった。

◆課題

受講者の職種、経験年数などにより、研修内容のニーズが違っていたため、内容を分ける必要性を感じた。

事業の方向性

継続	○	拡充		令和５年度は、学習会の内容を４回に分けて行い、より受講者のニーズに合う学習会を目指す。
改善		縮小		

〔チ〕　特別支援教育コーディネート事業

事業の概要

◆目的

小中学校に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒への適切な指導と必要な支援体制を構築する。

	◆事業費　３７１千円（一般３７１千円）
実　績	◆教育支援アドバイザーの配置（元八戸第二養護学校長　千葉隆史氏） 　児童生徒の特性に応じた教育支援に関する助言、校内支援委員会・校内研修会等の開催及び運営に関する支援、個別の教育支援計画や指導資料等の作成に関する支援、児童生徒の指導等に関する情報収集・提供、関係機関との連絡調整に関する支援のため、「教育支援アドバイザー」を配置。４～３月まで、計２４日間、計１３２時間。
成果と課題	◆成果 ・校内組織での体制が確立され、教育支援アドバイザーを中心した会議運営が継続的になされている。 ・通級指導の工夫改善により７年生以降も継続的な指導が見込まれ、９年間の系統性のある体制が整備されている。 ◆課題 ・中学校での通級指導については、指導にあたる教員の固定が難しく、未だ指導体制に改善の余地がある。

事業の方向性	継続	○	拡充	
	改善		縮小	

（８）環境教育の推進

〔ツ〕　立志科推進事業補助金交付事業（再掲・立志科の充実、キャリア教育の推進と関連）	
事業の概要	◆目的 　独自の教科である「立志科」により心豊かでたくましい児童・生徒を育むため、各学校が地域に根ざした教育活動を推進するための事業に対し補助金を交付する。 ◆事業費　　４８２千円（財源　一般４８２千円）
実　績	◆事業概要 （１）補助対象となる事業内容 自然環境や環境問題に関する体験を取り入れた教育活動 自然体験や社会奉仕体験を取り入れた教育活動 郷土理解に関わる体験を取り入れた教育活動 勤労生産・職業体験を取り入れた教育活動 上記を取り入れて行う、幼児・高齢者・障害者・外国人等や他校種等との交流活動 （２）各学校の活動内容

三戸小学校（２５０千円）	斗川小学校（１７０千円）
伝統食文化体験	畑作花き体験
伝統料理体験	稲作体験
昔の遊び体験	獅子舞伝承
福祉体験	日本文化体験
伝統芸能の伝承	郷土料理作り体験
英会話体験	魚の飼育、観察

三戸中学校（６２千円）
職場体験活動
コーチングセミナー

成果と課題	◆成果 ・立志科を通じて身につけさせたい１０の能力(自己を律する力、自己を啓発する力、他者を受容する力、仲間づくりをする力、集団生活で協力する力、規範を尊重する力、伝統文化や自然環境を理解する力、文化的活動を企画運営する力、社会的役割を遂行する力、将来設計をする力)の涵養につながった。 ・地域の方々とのふれあいを通じて、地域の学校支援意識の向上につながった。 ・地域に伝わる伝統・文化の継承の一助となっている。 ◆課題 ・コロナ禍等により計画した活動が行えない場合は、早めに事業計画の変更を行うなど、目的が達成できるよう働きかける。

事業の方向性	継続	○	拡充		
	改善		縮小		

（９）国際化に対応する教育の推進

〔テ〕 外国語指導助手（ＡＬＴ）招致事業	
事業の概要	◆目的 小中一貫教育英語科の充実及び国際理解教育の促進、並びに地域における国際交流の推進を図る。 ◆事業費　９，５９８千円（財源　一般９，３８０千円・公舎使用料２１８千円）
実　績	◆概要 （１）人数　２名（ＪＥＴ-ＡＬＴ１名、町雇用ＡＬＴ１名） （２）配置校　町内全小中学校３校（小学校２校、中学校１校） （３）保育所等派遣　２施設、２回（学校長期休業中） （４）その他　中学生英語スピーチコンテスト指導協力、オンライン留学指導協力、町内保育所等での英語体験活動
成果と課題	◆成果 ・児童生徒の英語に対する興味や関心、意欲が引き出され、特に小学校においては全ての英語科の授業で活用されており、その効果は非常に大きい。また、秋祭り参加、ロータリークラブとの交流などを通し、地域の国際交流促進につながっている。 ◆課題 ・２名のＡＬＴをどの学校に配置するか学校と協議し、ＡＬＴを有効に活用する。 ・令和５年度１学期はＪＥＴ－ＡＬＴが不在となり、町雇用ＡＬＴ１名となるため、ＡＬＴの負担が大きくならないように注意しながら、ＡＬＴを有効に活用し英語科授業やその他国際交流活動を実施してく必要がある。 ・令和５年度２学期から新ＪＥＴ－ＡＬＴを任用予定だが、ＡＬＴが健康的に過ごすことができるよう教育委員会全体でサポートする。

事業の方向性	継続	○	拡充		
	改善		縮小		

〔ト〕 ＧＴＥＣ（英語４技能検査）	
事業の概要	◆目的 「話すこと」「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の４技能についてスコア型の検定を行い、生徒の能力を向上させ、評価をフィードバックするとともに教員の指導改善にもつなげる。 ◆事業費 ３１８千円　財源（一般３１８千円）

実　績	◆概要 （１）受検対象生徒 三戸中８年生６０名 （２）受検内容 ＧＴＥＣ　Ｃｏｒｅ※中学の学習指導要領の範囲の語彙・文法レベル ４技能スコアと、外国語として言語を学んだ人がどれくらい活用できる能力があるかを判断する基準であるCEFRとの関連付けを行い評価するもの。
成果と課題	◆成果 ・生徒にとっては、４つの技能ごとのスコアがフィードバックされ、自らの得意な技能を発見でき、モチベーションの向上につながった。 ・教員にとっては、生徒へのフィードバックをふまえ、弱点を克服するための指導改善を意識的に行うことができた。 ・英語科教諭を対象に、業務実施元である(株)ベネッセコーポレーション担当者から、生徒へのフィードバック方法や指導のポイントを聞くことができ、今後の指導につなげることができた。 ◆課題 ・対象学年が８学年のみであれば、結果を比較できないことから指導改善に波及させることが難しい。 ・受検に向けた取り組みとして、伸びの実感や弱点の克服を目的に、７年生や９年生でも取り組めるよう連続性を持たせた方が有効である。

事業の方向性	継続	○	拡充		ＧＴＥＣ受検後、内容等が有効活用されていない現状から、英語科コーディネーターから助言を頂き、生徒の能力向上につなげる必要がある。また、７年生も受検対象とし、連続性のある受験体制で効果を検証する必要もある。
	改善		縮小		

〔ナ〕　小・中学生海外派遣事業（オンライン留学事業）	
事業の概要	◆目的 （１）マンツーマンでの英会話を受講することによる英語によるコミュニケーション能力向上 （２）外国の生活習慣や文化に触れることによる視野の拡大と国際意識の向上 ◆事業費　２，１７２千円　（財源　一般２，１７２千円・参加者負担０円）
実　績	◆概要 （１）実 施 日　１月５日（木）、６日（金）、１０日（火）３日間 （２）実施場所　三戸小中学校学習センター及びメディアセンター （３）参加人数　三戸中学校８学年２１名 （４）実施内容　CNE１のオンラインプログラムを受講 ①マンツーマン英会話５０分×２コマ ②国際交流グループレッスン５０分×１コマ （フィリピンライブツアー、フィリピンの高校生徒との交流） （５）そ の 他　三戸小中学校及び斗川小学校において体験会を実施 〈三戸小中学校〉 （１）実施日及び参加人数　５学年６０名　９月　８日（木） ６学年５６名　１０月２１日（金） ７学年６４名　９月　１日（木） ８学年６０名　９月　２日（金） （２）実施場所　各学年の教室

	（３）実施内容　CNE１のオンラインプログラムを受講 ①マンツーマン英会話５０分×１コマ ②国際交流グループレッスン５０分×１コマ 〈斗川小学校〉 （１）実 施 日　２月１０日（金）、１７日（金）２日間 （２）実施場所　斗川小学校５・６年生教室 （３）参加人数　斗川小学校５学年・６学年１３名 （４）実施内容　CNE１のオンラインプログラムを受講 ①国際交流グループレッスン５０分×２コマ （フィリピンライブツアー、フィリピンの高校生徒との交流）
成果と課題	◆成果 ・授業などでインプットした英語を、コミュニケーションツールとしてアウトプットしようとする意識が向上した。 ・英語の学習を、受検のためではなく、グローバル化する社会の中で活用するために必要であるという意識をもたせることができた。 ・外国人講師との会話や動画による研修により、異文化に対する理解や自国文化を再認識させることができた。 ・オンラインの特性を生かし、昨年度よりも多くの児童生徒に参加してもらうことができた。 ◆課題 ・次年度は実際に海外への派遣を行い、併せてオンラインの良さも取り入れ、より児童生徒の英語によるコミュニケーション能力と国際意識を向上させる必要がある。

事業の方向性	継続	○	拡充		・海外への派遣を行う際は、新型コロナウイルスの状況や受入先の態勢（ホームステイ先の確保等）を考慮して行う。 ・派遣先（タムワース）と学校（三戸）をオンラインでつなぎ、コミュニケーションをとる等オンラインを取り入れた事業とする。
	改善		縮小		

（１０）情報化に対応する教育の推進

〔ニ〕　ICT支援員設置事業	
事業の概要	◆目的 小学校における情報教育を円滑に進めるため、小学校にコンピュータ技能者を配置することにより、専門性の発揮による情報教育の推進を図るとともに、教員の負担の軽減を図る。 ◆事業費　３，１７６千円（財源　一般　３，１７６千円）
実　績	◆①配置期間　令和４年４月１日　～　令和５年３月３１日 ②配置学校　三戸小中学校　１人 ③業務内容　・学級単位のパソコン学習における担任教員とのチームティーチング ・パソコンを活用した調べ学習等への随時、個別指導 ・パソコン機器・ソフトの保守管理 ・教員へのパソコン指導及びデータ作成等の校務支援 ・学校ホームページの作成
成果と課題	◆成果 ・パソコンのハード・ソフトの保守管理が常に万全であるため、クラス全員での授業においても機器・ソフトの不具合により授業に支障を来すことがなく、円滑な授業を行うことができた。 ・保守管理のための教職員の負担軽減が図られ、教員が授業準備や児童との関わりの時

	間を確保することができた。 ・学校が必要とするデータの集計等のフォーム等を作成することにより、事務処理の効率化に繋がった。 ・教職員が使用するパソコンの定期的なメンテナンス実施により、パソコンを使用する事務処理環境が常に良好に保たれている。 ◆課題 ・ＧＩＧＡスクール構想に伴う１人１台端末の整備と、高速通信可能なネットワーク環境が整備されたことで、これまで以上の役割が求められることにより、マンパワーが不足すると考えられる。

事業の方向性	継続	○	拡充		国庫補助事業「ＧＩＧＡスクールサポーター」も併用し、役割分担しつつも令和５年度以降の体制整備を行う。
	改善		縮小		

〔ヌ〕　三戸地方未来塾補助事業	
事業の概要	◆目的 ＩＣＴ教育の環境整備と振興のため、三戸地方未来塾が行う(1) ＩＣＴクラブの運営(2) 学校への出前授業(3) 未来体験講座(4) ワークショップ等の開催や各種事業に対し補助金を交付する ◆事業費　１，０００千円（財源　一般１，０００千円）
実　績	◆実施事業 １　ＩＣＴクラブの運営（学校のある水曜日に開催） （１）日程：令和４年６月１日～令和５年３月８日　計３１回 （２）対象：町内小・中学生（４～９年生）小学生１９人、中学生５人 （３）内容：キーボード入力、スクラッチを活用したプログラミングの実践など ２　出前講座 （１）日程：令和５年１月２６日・２月６日の２日間 （２）対象：小中一貫三戸学園斗川小学校児童４～６年生　１８名 （３）内容：キーボード入力、スクラッチを活用したプログラミングの実践など ３　公民館講座 （１）日程：令和５年１月２９日・３月５日の２日間 （２）対象：町内小学生児童４～６年生　１０名 （３）内容：ドローン体験・マイクロビット体験など
成果と課題	◆成果 ・プログラミングが必修化され､学校でプログラミング的思考を学習した子どもたちが､地域の中で継続的に学べるＩＣＴクラブを運営することができた。 ・斗川小学校の児童も出前講座としてプログラミングを体験することができた。 ・公民館講座として、学校外でのＩＣＴ教育活動を展開することができた。 ◆課題 ・昨年度の反省点を踏まえ、参加料を徴収して事業を展開したところ、人数は減少したが、主体的に学ぼうとする子が増えた傾向にある。 ・学校外でＩＣＴ教育活動を展開することで、不登校など問題を抱える児童生徒も参加させたかったが難しかった。

事業の方向性	継続	○	拡充		ＩＣＴクラブの活動を活発にすることができたことから、中学生の参加者も増やし、幅広くＩＣＴ教育を展開できるようにする必要がある。
	改善		縮小		

〔ネ〕　ＧＩＧＡスクールサポート業務	
事業の	◆目的

概要	GIGAスクール構想による1人1台端末整備後の通信環境の良好な運用や保守点検を行うとともに、有効な活用のための教職員への研修を行う。 ◆事業費　７９２千円（財源　国庫２６４千円　一般５２８千円）
実　績	事業概要 ◆GIGAスクールネットワーク環境の良好な運用のための支援 （１）頻度：月２回程度 （２）対象：町内全小中学校 （３）内容：ネットワーク環境評価、通信テスト、初期設定支援 ◆　GIGAスクールに係る教職員研修 （１）日程：令和５年１月１０日 （２）対象：町内教職員　計１７名 （３）内容：MEXCBT及び学習eポータルの活用について
成果と課題	◆成果 ・令和5年度から本格的な活用が見込まれるMEXCBTや学習eポータルについての教職員の知識習得に繋がった。 ・新型コロナウィルス感染症により、出席停止などの措置となる児童生徒に対して、学びを止めることなく、オンラインで継続した授業を配信することができた。 ・コロナ禍で中学生の海外派遣研修事業ができない状況であったが、フィリピンとのオンラインによる留学体験ができるなど、工夫した取り組みができた。 ◆課題 ・急速な教育現場のICT化が進行し、新たな知識が必要となる中、引き続き実際に活用する教職員の育成が必要となる。
事業の方向性	継続 ○　拡充 ／　改善 ／　縮小

（１１）安全・安心な学校環境づくりの推進

〔ノ〕	学校施設・設備整備
事業の概要	◆目的 児童生徒に安全で快適な学習環境を提供するために施設・設備の整備及び適切な維持管理を行う。 ◆事業費　１２，５０４千円
実　績	◆主な工事・修繕 ①三戸小中学校防火扉及び防火シャッター改修修繕　６６０，０００円 ②斗川小学校看板設置工事　２５３，０００円 ③斗川小学校視聴覚室空調設備移設工事　１，２８７，０００円 ④三戸小中学校防火シャッター安全装置設置工事　１，２９８，０００円 ⑤三戸小中学校第一保健室ほか空調機修繕　３３０，０００円 ⑥三戸小中学校駐車場区画線設置工事　８４，７００円 ⑦三戸小中学校給食用小荷物専用昇降機メインワイヤーロープ交換修繕　１９２，５００円 ⑧三戸小中学校理科室空調設備設置工事　８，１９５，０００円 ⑨三戸小中学校インターロッキング修繕　２０３，５００円
成果と課題	◆成果 ・前年度、学校から出された施設整備の要望書に基づき、整備の計画をしたものについては計画通りに、また学校施設設備点検の結果を踏まえて修繕、対応を要するものについては随時整備を行った。

	◆課題 ・学校側からの要望事項は多種多様にわたるが、緊急度を勘案し計画的な予算計上に努め、修繕等を実施しなければならない。 ・施設の老朽化が進むにつれ高額を要する修繕等も増加傾向にあるため、国庫補助等の財政措置について精査したうえで改修の計画等も検討する。

事業の方向性	継続	○	拡充	
	改善		縮小	

〔ハ〕　日本スポーツ振興センター災害共済給付事業	
事業の概要	◆目的 学校の管理下における児童生徒の災害（負傷、疾病、障害又は死亡）に係る医療費について、保護者に対し災害共済金の給付を行い保護者負担を軽減することにより、学校教育活動を円滑に実施することを目的とする。 ◆事業費　４７３千円（財源　一般３０２千円・その他１７１千円）
実　績	◆共済加入児童生徒数 小学生３１８名　　中学生１９３名　　合計５１１名 ◆共済掛金 一般児童生徒　　９３５円（町負担額５３５円、保護者負担額４００円） 準要保護児童生徒　　９３５円（町負担額９３５円） 要保護児童生徒　　５５円（町負担額４７円、国庫補助８円） ◆発生件数・給付金 小学校　　発生件数　９件（給付件数１３件）　　４０，３２０円 中学校　　発生件数１８件（給付件数３５件）　３７４，２５２円
成果と課題	◆成果 ・児童生徒のほとんどが加入しており、児童生徒の負傷等に係る医療費支払い分の他、見舞金として１割加算分が給付されるため、保護者の医療費負担軽減につながっている。 ◆課題 ・町で実施している子ども医療費助成制度に優先して適用する制度のため、一旦は窓口負担を保護者に強いることになっている。

事業の方向性	継続	○	拡充	
	改善		縮小	

〔ヒ〕　児童生徒緊急搬送タクシー運行事業	
事業の概要	◆目的 児童生徒の学校管理下内における事故への迅速な対応のため、各学校から病院まで怪我をした児童生徒の搬送を行う。 運行条件：①生命の危険が伴う場合は救急車対応 ②学校、病院までの往復対象（教職員引率） ③原則町内各病院、状況によっては町外の病院も可 ④タクシーの利用は、養護教諭から報告を受けた学校長の判断 ◆事業費　９千円（一般財源９千円）
実　績	◆事故時における児童生徒の病院へのタクシーによる搬送回数 ・小学校　２回（往復１回） ・中学校　２回（往復１回）
成果と	◆成果

課題	・学校管理下内における生命の危険を伴わない事故について、児童生徒の病院への搬送をタクシーにより行っている。平成１７年度以前は、教員の自家用車を使用しており、交通事故等への対応について問題があった。同事業の実施により児童生徒の事故対応が迅速かつ適正に行われることとなる。				
事業の方向性	継続	○	拡充		
	改善		縮小		

（１２）教員研修の充実

〔フ〕　授業実践支援事業（三戸地方教育研究所）					
事業の概要	◆目的 　三戸町及び田子町の学力の向上を目指し、学級経営や授業に関する課題について授業参観、協議及び指導助言を行うことにより、三戸町及び田子町の学力の向上に資する。 ◆事業費　１６千円（うち三戸町分　１０千円）				
実　績	◆実施校　２校（うち三戸町１校） ・三戸学園　　４学年英語　（２回） 三戸学園　　８学年英語　（１回） 三戸学園　　９学年立志科（２回） 田子小学校　２学年国語　（２回） ・指導助言者　三八教育事務所　指導主事　滝田　敏広（国語・立志科） 三八教育事務所　指導主事　川井　利之（英語）				
成果と課題	◆成果 　少人数で協議会を行うことにより、授業者の意見を聞きながら、様々な視点から協議をすることができ、日頃の指導に役立てていただくことができるものとなった。今年度は、１回中止があったものの、２回授業を参観することができ、指導者や児童の変容を見ることができた。 ◆課題				
事業の方向性	継続	○	拡充		
	改善		縮小		

〔ヘ〕　教育相談研修講座（三戸地方教育研究所）					
事業の概要	◆目的 　児童・生徒の学校適応のための教育的援助について研修し、学級経営の改善と教員の指導力の向上に資する。 ◆事業費　８千円				
実　績	◆内容　「ＳＯＳの出し方教育」 講師　青森県総合学校教育センター　教育相談課　指導主事　佐藤　幸広 対象　２町小中教職員、幼保職員、学童保育担当 参加者　５６名（集合７名　オンライン４９名　うち三戸町４２名）				
成果と課題	◆成果 　今年度は、「ＳＯＳの出し方教育」についての研修を、集合形式とオンラインを併用して行い、多数の方に参加していただくことができた。受講した先生方からは、「教育相談の具体的な声がけの仕方についてよりよい方法を学ぶことができた。」「子どもが相談しやすい雰囲気作りが大切であることがわかった。」など大変好評であった。 ◆課題				
事業の方向性	継続		拡充		令和５年度は、〔タ〕教育支援委員会学習会を４回に分けて実施するため、教育相談研修講座は休講する。
	改善		縮小		

（１３）複式教育の充実

〔ホ〕　学級経営のための調査（Q-U、ASSESS）（三戸地方教育研究所）（再掲・生徒指導の充実と関連）	
事業の概要	◆目的 学級の状態を把握するための調査「hyper-QU」・「Q-U」を三戸小中学校で実施、「ASSESS」を斗川小で実施し、活用を促すことにより児童生徒理解に基づいた生徒指導、より良い学級経営の実現に資する。 ◆事業費　６３１千円（うち三戸町分４２９千円）
実　績	◆　１回目　５月「hyper-QU」　対象　三戸小中学校 ２回目１０月「Q-U」　対象　三戸小中学校 １回目　５月「ASSESS」　対象　斗川小学校 ２回目１０月「ASSESS」　対象　斗川小学校
成果と課題	◆成果 「hyper-QU」では、学級の満足度尺度、個人の生活意欲尺度、ソーシャルスキル、学力とのクロス集計など、教師用の詳細な分析データと児童生徒用個人票が送付され、各学校で活用していただいている。また、２回目の「Q-U」の結果と比較し、各学級の変容をとらえ、指導を行うことができた。いじめや不登校の未然防止の資料としても活用できる部分が多い。 「hyper-QU」「Q-U」では学級集団の中で児童生徒の満足度を測るものであり、小規模校の実態に合わないということから、斗川小学校では「ASSESS」を行った。「ASSESS」は児童生徒が学校環境にどれだけ適応しているのかを測るもので、個人の現状や変容が捉えやすい。 ◆課題 すべての学級の結果の分析について、校長または教頭に情報提供する必要がある。

事業の方向性	継続	○	拡充	
	改善		縮小	

３．社会教育指導の重点

（１）学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成

〔ア〕　さんのへ農業小学校支援事業					
事業の概要	◆目的 子どもたちに農業体験を通して、働くこと、協力し合うことの大切さを教えたり、たくましい精神力・創造力を身につけさせたりするため、三戸食農推進協議会が行う農業小学校運営事業の運営を支援する。 ◆事業費　４２０千円（財源　一般４２０千円）				
実　績	◆さんのへ農業小学校事業 ・実施日数　１０回（月１回程度の土曜日の午前中に実施）※中止　２回 ・登録児童　１９名（三戸小のみ） ・事業内容　農作業６回、販売体験１回、課外体験１回、もちつき１回、式典１回				
成果と課題	◆成果 ・年間を通じて、多品種にわたる作物の植付、管理、収穫、販売、加工体験等を行い、充実した体験活動をすることができた。 ・班編制による異年齢間の交流やグループ作業によりリーダーシップや積極性、協調性や思いやりの心を育むことができた。 ・農業普及振興室と連携することで、授業の幅が広がった。 ◆課題 ・植付・収穫は授業で行えるが、草取りや肥料散布などの日常管理を授業で実施することが難しい。 ・栽培の難易性や収穫時期などの条件により栽培品目の選択が難しい。				
事業の方向性	継続	○	拡充	○	事業開始時の趣旨に鑑み、今後近隣市町村へ周知を図り、参加者を募っていく。
	改善		縮小		

〔イ〕　三戸町子ども会育成連絡協議会支援事業	
事業の概要	◆目的 子ども会育成連絡協議会の事業を支援し、子どもの健全育成を推進する。 ◆事業費　１１０千円（財源　一般１１０千円）
実　績	◆子ども会わくわく（リーダー）キャンプ研修会 ・新型コロナウイルス感染防止のため中止した。 ◆秋の子ども会フェスタ ・新型コロナウイルス感染防止のため中止した。 ◆子ども会大会 （１）開 催 日　令和５年２月１９日 （２）場　　所　三戸町民体育館 （３）参加人数　１７人 （４）内　　容　けりゴマを使った５種類のゲーム大会
成果と課題	◆成果 ・コロナの影響により実施できないイベントもあったが、冬の子ども会大会は３年ぶりに開催することができ、子どもたちに遊びの場を提供することができた。 ◆課題 ・子どもたちが安心・安全に参加し楽しむことができるよう、従来の開催内容と開催方法を改善していく必要がある。

事業の方向性	継続	○	拡充		イベント開催へ向けて関係各所との連携強化と開催方法の見直しを行うことが必要。
	改善	○	縮小		

〔ウ〕　伝統芸能保存継承事業	
事業の概要	◆目的 　伝統文化の保存継承のため、活動の記録作成や後継者の育成支援、発表機会の充実に努める。 ◆事業費　０千円
実　績	◆伝統行事での各団体の活動支援及び記録作成 ①「泉山七歳児初参り」※コロナ禍の影響により中止 ②「三戸秋まつり（斗内獅子舞)」 ◆各種発表会等での各団体の活動支援 「斗川小学校学習発表会」での支援 期日：１０月１日（土）斗内小学校1～6学年（23人）による演舞 ◆継承活動（学校授業等）への支援 斗川小学校　1～6学年の舞の指導（総合学習） 期日：9月毎週月曜日（うち２回） 斗内獅子舞保存会　児童・生徒への指導 期日：6～10月まで（合計18回）
成果と課題	◆成果 ・活動支援により、後継者育成の一助になっている。 ・団体が抱える課題についてまとめることができた。 ◆課題 ・団体の運営の中で特に問題となっているのは運営費が少ないことである。 ・団体の活動で最も重要なことは後継者の育成であり、このことが保存と継承を大きく左右する。しかし、近年の大幅な人口流出等により、どの団体も後継者の確保が困難となっている。 ・遠藤のえんぶりの再開について 遠藤のえんぶりは平成１７年に行われたのを最後に、現在まで実施されていない。 今後も活動再開の手立てを模索しながら、引き続き復活に向けた話し合いを継続していく。

事業の方向性	継続	○	拡充	○	保存と継承を推進するには、各種団体の発表の機会を充実させることが最も重要であり、関係機関に働きかけをしていく必要がある。
	改善		縮小		

〔エ〕　ふれあい活動事業	
事業の概要	◆目的 　子どもからお年寄りまで、早朝にあいさつをかわし、ふれあいながら、ごみ拾い、草取りや落ち葉拾いなど清掃・環境美化活動を行うことにより、各人が、自分の住んでいる地域を愛する心を育てるとともに、きれいで快適な町づくりに資するため実施するものである。 ◆事業費　０千円（財源　一般０千円）
実　績	◆年３回、花植え、ゴミ拾い、河川敷清掃、草刈り等の環境美化活動を実施。 第１回活動：令和４年　６月　５日（日） 第２回活動：令和４年　８月　７日（日） 第３回活動：令和４年１０月　９日（日）
成果と課題	◆成果 ・活動は定着しており、地域コミュニティ強化の一助となっている。

	◆課題 ・子どもたちの参加が少ないので、各町内会の会長や子ども会の会長への呼びかけや学校からの周知を依頼する等、参加の促進を図る。

事業の方向性	継続	○	拡充		
	改善		縮小		

〔オ〕　放課後子ども教室推進補助事業	
事業の概要	◆目的 子どもを取り巻く環境の変化、家庭や地域の子育て機能・教育力の低下が指摘されるなか、地域住民の協力を得て、放課後に子どもたちが安全で安心して活動できる居場所づくりを推進することを目的として実施する放課後子ども教室の運営に必要な補助金を交付する。 ◆事業費　９８８千円（財源　国３１５千円、県３１５千円、一般３５８千円）
実　績	◆三戸小なかよし教室運営 (1)登録児童数１３人、教育活動推進員８人、コーディネーター１人 (2)参加児童数　延べ　　人 (3)運営日数　年間１０７日（月・水・金） (4)活動内容　宿題、英語あそび、運動プログラム、囲碁教室、他 (5)活動場所　老人福祉センター
成果と課題	◆成果 ・今年度は、コロナ禍で３年開催できなかったヴァンラーレ八戸の選手を招いたサッカー教室を実施することができた。 ・定期的な実行委員会を行い、指導員間で子どもたちに対する指導や運営等に関しての共通理解を図り、安全に子どもたちを見守ることができた。 ◆課題 ・新型コロナウイルスの規制が緩和されるため、外部の方々との交流できる環境を整えていきたい。

事業の方向性	継続	○	拡充		
	改善		縮小		

〔カ〕　青少年健全育成三戸町民会議運営事業	
事業の概要	◆目的 青少年が健康で人間性豊かに成長することを願い、青少年健全育成町民会議を設置し町内各関係機関との連携のもと、青少年の健全育成を推進する。 ◆事業費　９５千円（財源　一般９５千円）
実　績	◆朝のあいさつ運動 ・チラシ回覧　令和４年６月２８日 ・実　施　日　令和４年７月１１日～１５日 令和４年８月２４日～３０日（土日除く） ・実施場所　各学校正門前、通学路等 ◆青少年健全育成三戸町民研修会 ・令和４年１２月１１日（土） 研修会　講師：スクールカウンセラー　北山　勝則氏 「地域力で親育て」～子ども達の笑顔～ ◆青少年健全育成の啓発 ・青少年健全育成に係る横断幕の設置 … 各小中学校周辺

成果と課題	◆成果 ・あいさつ運動のチラシ回覧をすることで、町民相互におけるあいさつの機運を高め、町民の参加を促した。あいさつ運動の実施日には早朝から青森県青少年健全育成推進員及び関連団体、地域住民にも参加いただき、学校正門前や通学路等で生徒・児童とあいさつを交わすことで、あいさつの重要性を広めることできた。 ・三戸町民会議役員・町民生委員・町社会教育委員を対象に、スクールカウンセラーの北山勝則氏を講師に招き、研修会を開催した。 ◆課題

事業の方向性	継続	○	拡充		
	改善		縮小		

〔キ〕　三戸町少年指導センター事業	
事業の概要	◆目的 少年指導機関､団体及び民間有志が少年の非行防止に必要な業務を効果的に行うため、合同活動の拠点として三戸町少年指導センターを設置し非行防止活動を行う。 ◆事業費　２７７千円（財源　一般２７７千円）
実　績	◆三戸町少年指導センター （１）研修会　　０回 （２）一斉巡回活動　２回（春季、夏季）：延べ人数　３５名 （３）随時巡回活動　通年 （４）少年指導委員　３５名 ◆主な事業費 委員報酬　２００，０００円（一斉巡回65名×@2,000　＋　随時活動35名×@2,000） 食 糧 費　　１９，２５０円（春まつり期間弁当）
成果と課題	◆成果 ・春まつりおよび、夏休み期間の夜間巡回を行った。人目につかない場所を中心に一斉巡回した。 ◆課題 ・巡回に一度も参加できない指導委員があり､参加する指導委員も固定されてきている。指導委員相互の連携と、参加への呼びかけを強める。

事業の方向性	継続	○	拡充		
	改善		縮小		

〔ク〕　家庭教育学級開催事業	
事業の概要	◆目的 参観日等、多くの親が集まる様々な機会において、家庭教育に関する学習機会を提供し、家庭の教育力の向上を図ることを目的とする。 ◆事業費　５千円（財源　一般５千円）
実　績	◆三戸町病後児保育ジャブ（令和４年１２月２４日開催） 内　　容　　ふれあい遊びとママフィットエクササイズ 派遣講師　　武部　貴子　氏　（ママフィット認定インストラクター） 参加人数　　１８名
成果と課題	◆成果 ・実施団体のニーズに沿った事業を実施することができた。 ◆課題 ・今年度は実施団体が１団体だったため、今後多くの団体に事業を活用してもらえるよ

	う周知方法等を考えたり事業内容を見直すことが必要である。				
事業の方向性	継続	○	拡充		
	改善	○	縮小		

（２）活力ある地域コミュニティの形成に向けた人財の育成

〔ケ〕　二十歳を祝う会開催事業					
事業の概要	◆目的 若者たちの門出を祝い励ますと共に、社会を担っていく主体としての自覚を促す。 ◆事業費　２１９千円（財源　一般２１９千円）				
実　績	◆令和５年三戸町二十歳を祝う会実行委員会 開催日　令和４年８月２４日（水） 場　所　三戸町中央公民館　　参加者８人 ◆令和５年三戸町二十歳を祝う会 ・令和５年１月８日（日）　対象者７４人 ◆記念品 ・集合写真				
成果と課題	◆成果 ・対象者による実行委員会を組織し、企画・運営させることで、主体的に二十歳を祝う会に進んで社会参加しようとする意識の高揚を図ることができた。 ・式典、セレモニーなどにおいて、対象者へ役割を持たせ、二十歳としての自覚を持たせることができた。 ◆課題 ・今後、対象者の人数も減っていくので、式典やセレモニーの内容など検討していく必要がある。				
事業の方向性	継続	○	拡充		
	改善		縮小		

〔コ〕　三戸町人材活用講師派遣事業					
事業の概要	◆目的 町内小中学校での授業等教育活動の円滑な運営に資するため、地域において各種技能や知識、経験を有する町民を講師として学校に派遣するものである。 ◆事業費　１６千円（財源　一般１６千円）				
実　績	◆小中一貫三戸学園三戸小学校 開 催 日　　令和４年９月１５日（木）～９月２９日（木）　計６回 派遣講師　　２名 派遣内容　　紙版画制作の支援				
成果と課題	◆成果 ・各学校の要望に応じて講師を紹介することができた。 ◆課題 ・活用団体が少ないため、呼びかけや周知を行う。				
事業の方向性	継続	○	拡充		
	改善		縮小		

〔サ〕　ふれあい活動事業（再掲） （学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成と関連）	
事業の	◆目的

概要	子どもからお年寄りまで、早朝にあいさつをかわし、ふれあいながら、ごみ拾い、草取りや落ち葉拾いなど清掃・環境美化活動を行うことにより、各人が、自分の住んでいる地域を愛する心を育てるとともに、きれいで快適な町づくりに資するため実施するものである。 ◆事業費　０千円（財源　一般０千円）
実　績	◆年３回、花植え、ゴミ拾い、河川敷清掃、草刈り等の環境美化活動を実施。 第１回活動：令和４年　６月　５日（日） 第２回活動：令和４年　８月　７日（日） 第３回活動：令和４年１０月　９日（日）
成果と課題	◆成果 ・活動は定着しており、地域コミュニティ強化の一助となっている。 ◆課題 ・子どもたちの参加が少ないので、各町内会の会長や子ども会の会長への呼びかけや学校からの周知を依頼する等、参加の促進を図る。
事業の方向性	継続 ○　拡充　 改善　　縮小

（３）一人一人の主体的な学習と社会参加の推進

〔シ〕　公民館講座	
事業の概要	◆目的 町民の学習ニーズに応じて、自発的な学習意欲を高め、自らに適した手段・方法で受講できるさまざまな学習機会を提供することにより、生涯学習の推進を図る。 ◆事業費　５９３千円（財源　一般５９３千円）
実　績	（１）講座数　長期：９講座（新規講座１）　短期：２講座（新規講座２） （２）講座内容　長期　①書道　②押し花　③ﾙｰｼｰﾀﾞｯﾄﾝ　④ｱﾛﾏﾌｨｯﾄﾈｽ　⑤料理 ⑥鉛筆画　⑦からだの学校　⑧ｱｰﾃｨﾌｨｼｬﾙﾌﾗﾜｰ ⑨体ｽｯｷﾘかんたん筋ﾄﾚ　⑩ﾆｭｰｽﾎﾟｰﾂ体験教室 短期　①郷土料理　②はじめてのﾌﾗﾀﾞﾝｽ （３）受講者数　１４１名（延べ７２７名） （４）講師謝金　５００，０００円（１０講師１０２回　一回あたり6,000円～15,000円） （５）委託費　９３，０００円（２講座：体ｽｯｷﾘかんたん筋ﾄﾚ、ﾆｭｰｽﾎﾟｰﾂ体験教室）
成果と課題	◆成果 ・アンケート結果から町民の希望に添った講座を開講することができた。 ◆課題 ・若い年代層の参加者にも参加してもらうため、開催曜日、時間等を考える必要がある。
事業の方向性	継続 ○　拡充　 改善　　縮小

〔ス〕　公民館分館講座委託事業	
事業の概要	◆目的 各分館が地域性を生かしながら、住民の健康増進、教養の向上、伝統文化の継承、世代間交流等を通して地域住民の親和を図り、もって豊かな地域づくり、まちづくりに寄与する。 ◆事業費　６２５千円（財源　一般６２５千円）
実　績	◆（１）分館数　６（泉山、梅内、斗内、貝守、蛇沼、大舌） 新型コロナウイルスの影響により目時、豊川、袴田、杉沢は中止。

下田は活動休止中。

（２）講座数　　１９講座（全分館分）

（３）主な講座内容　手芸教室、料理教室、健康教室、農業講座、伝統芸能伝承

（４）参加者数　　３９３名（延べ人数）

（５）講座委託料　　１分館　５０千円

（６）分館職員報酬　分館長３０千円　主事１２千円　書記　１２千円

（７）分館講座一覧

分館名	講座名	講座内容
泉　山	神楽伝承講座	神楽の習得
	伝承講座	御礼歌の習得
	健康教室	体操の習得
	りんご剪定講座	剪定技術の習得
	手芸教室	廃油を利用した石けん作り
梅　内	健康教室	健康教育
	手芸教室	干支のカレンダー作り
	手芸教室	南部菱刺し教室
貝　守	伝統工芸	伝統工芸作り
	婦人研修	視察研修
	軽スポーツ講座	体力作り
蛇　沼	登山クラブ	安達太良山登山
	写真クラブ	横浜町菜の花畑の撮影
	料理教室	料理を楽しもう
大　舌	環境整備	花植え、草刈り等
	料理教室	そば作り、うどん作り、つつけ作り
	手芸教室	カゴ作り
斗　内	斗内獅子舞の伝承	斗内獅子舞を繋ごう
	子どもクッキング	親子でふれあう

成果と課題

◆成果

・各分館の自主的な企画によりそれぞれの地域の特性を活かした講座を開催することができている。

・一人暮らしの高齢者などの交流の場ともなっており、地域の活性化につながっている。

◆課題

・分館職員の確保や参加者の減少等が課題となっており、今後も継続していけるよう活動方法を考えなければならない。

事業の方向性

継続	○	拡充		
改善		縮小		

〔セ〕　三戸町歴史講座

事業の概要

◆目的

三戸地方を中心とした文化や歴史に触れ、地域の魅力を再発見するとともに、地域文化の振興に寄与する。

◆事業費　８２千円（一般財源８２千円）

実　績

実施回数　５回　　受講者総数　１４０名

①令和４年　５月２８日（土）　鎌倉殿と南部氏　　滝尻侑貴氏　３４名

	②令和４年　７月３０日（土）　三戸代官所　中村隼人氏　２７名 ③令和４年　８月２０日（土）　南部信直書状と娘千代子　熊谷隆次氏　２５名 ④令和４年　９月１７日（土）　三戸城絵図に見る家臣たち　木村明彦氏　３２名 ⑤令和４年１１月１２日（土）　南部氏の藩領から三八地域へ　中園　裕氏　２２名				
成果と課題	◆成果 ・国史跡三戸城跡への関心の高まりも相まって、郷土に対する歴史理解の促進につながった。 ◆課題 ・受講者の固定化が見られ、若年層の参加者が少ない。				
事業の方向性	継続	○	拡充		
	改善		縮小		

〔ソ〕　高齢者学級寿教室					
事業の概要	◆目的 高齢者が心身ともに健康で生きがいある生活を送ることができるよう高齢者の生活課題に関連した学習機会や喜びや楽しさを感じられる機会を提供する。 ◆事業費　４８０千円（財源　一般４８０千円）				
実　績	◆実施概要 （１）学級生数　６１名（男性８名・女性５３名） （２）最高齢者　９１歳　平均年齢８０歳 （３）学習会の実施状況 ①第５０回開級式　令和４年　４月２５日（月）　３２名 ②「金魚ねぶた作り講座」　令和４年　５月３０日（月）　３０名 ③「グラウンドゴルフ講座」　令和４年　６月２７日（月）　３１名 ④「バス研修」　※コロナの影響により中止 ⑤「ニュースポーツ講座」　令和４年　８月２２日（月）　２１名 ⑥「パークゴルフ講座」　令和４年　９月２６日（月）　２５名 ⑦「元気なからだ作り教室」　令和４年１０月３１日（月）　２５名 ⑧「映画鑑賞」　令和４年１１月２６日（月）　２３名 特「テーブルマナー講座」　令和４年１２月１６日（金）　２０名 ⑨「お正月飾り作り講座」　令和４年１２月２６日（月）　２２名 ⑩「貯筋教室」　令和５年　１月３０日（月）　２３名 ⑪「三戸町長お話会」　令和５年　３月　３日（金）　３０名 ⑫第５０回閉級式　令和５年　３月２７日（月）　３５名 （４）クラブ活動の実施 書道クラブ、グラウンドゴルフクラブ、舞踊クラブ				
成果と課題	◆成果 ・高齢者が集う機会を提供することにより、交流が生れ、様々な生涯学習への参加が促されている。 ・仲間とふれあい、楽しみながら学習会に参加することができ、高齢者の生きがいづくりの場となっている。 ◆課題 ・講座内容について、学級生の希望を取り入れて楽しんでもらえるようなものを考える必要がある。				
事業の方向性	継続	○	拡充		
	改善		縮小		

〔タ〕　子ども公民館講座	
事業の概要	◆目的 　普段、公民館を利用することが少ない子どもたちに、夏休みや冬休みなどを利用し、ものづくり体験をとおして、仲間とのふれあいや交流を深めることにより、健全な子どもの育成の一助とする。 ◆事業費　５０千円（一般財源５０千円）
実　績	◆第１回　体軸体操教室 （１）開催場所　三戸町中央公民館　ホール （２）参 加 者　９名 （３）内　　容　体のバランス感覚を養ったり、土台作りのための運動を行う ◆第２回　ドローン体験教室 （１）開催場所　三戸町民体育館 （２）参 加 者　７名 （３）内　　容　ドローンのプログラミングと操作の体験 ◆第３回　マイクロビット体験教室 （１）開催場所　ジョイワーク三戸　会議室 （２）参 加 者　３名 （３）内　　容　プログラミングにより文字やゲームを作る
成果と課題	◆成果 ・学校では普段できない体験学習の機会を子ども達に与えることができた。 ◆課題 ・時代や子ども達のニーズに沿った活動をしていきたい。

事業の方向性	継続	○	拡充		子どもたちの興味のある分野に沿った講座を開催する。
	改善		縮小		

〔チ〕　わくわく城山楽園体験スクール	
事業の概要	◆目的 　子どもたちが遊びや自然体験をはじめとした様々な体験活動を行うことにより、親や家族及び仲間とのふれあいや交流を深めるとともに、驚きや感動を体験させて、自然や環境を大切にする心や豊かな感性を育むことを目的とする。 ◆事業費　１０千円（一般財源１０千円）
実　績	◆第１回　なべっこだんご作り体験教室 （１）開催場所　アップルドーム　調理室 （２）参 加 者　１５名 （３）内　　容　米粉と小麦粉でなべっこだんごを作る ◆第２回　木の実アート体験教室 （１）開催場所　ジョイワーク三戸　ホール （２）参 加 者　６名 （３）内　　容　木の実を使ってオリジナル作品を作る
成果と課題	◆成果 ・三戸町の郷土を学びながら料理を作ったり、自然のものを使ってオリジナリティあふれる作品を作ることができた。 ・親子で一緒に作業することでふれあいの場を設けることができた。 ◆課題 ・より多くの親子が参加できるよう考慮し、子どもの興味のあるものを考える必要があ

	る。				
事業の方向性	継続		拡充		来年度は子ども公民館講座と一体化し、講座内容によって子どもでの参加か親子対象に分けて開催する。
	改善		縮小	○	

〔ツ〕　公民館まつり開催事業	
事業の概要	◆目的 　公民館を学習拠点とした生涯学習活動団体に、発表の場を提供し、その成果を広く町民に紹介する機会を設けることにより、生涯学習の推進を図ることを目的とする。 ◆事業費　０円
実　績	◆作品展示 （１）期　　間　令和４年１１月４日～６日 （三戸町総合文化祭、子ども文化作品展と併催） （２）来場者数　延べ１，００９人（３日間合計） （３）出品数　・公民館講座・サークル作品 トールペイント　２０点、書道　１０点、押し花　５０点 キャンバスの会　１４点、絵手紙サークル川の驛　７５点 鉛筆画　３３点　ｱｰﾃｨﾌｨｼｬﾙﾌﾗﾜｰ　２８点 計２３０点
成果と課題	◆成果 ・公民館講座で制作した作品の展示の場を提供することができた。 ・三戸町総合文化祭、子ども文化作品展と併催したことで、多くの町民に活動の成果を見せることができた。 ◆課題 ・参加団体、来場者が減少しているため、多くの人に参加してもらえるような取組みを考える必要がある。
事業の方向性	継続 ○　拡充　 改善　縮小

（４）社会教育推進のための基盤整備

〔テ〕　三戸町中央公民館管理運営	
事業の概要	◆目的 　生涯学習の中核的施設として、町民のために実生活に即した各種の事業を実施し、町民の教養の向上及び健康増進並びに住民相互の交流が図られるよう、施設の適切な維持管理及び整備充実を図るものである。 ◆公民館運営費総額　２２，３４６千円（財源　一般　22,196千円　特定　150千円） ◆公民館使用料収入　１５４千円
実　績	◆概要 ・車輌整備関係　　１，６０２千円 ・ボイラー整備関係　４２４千円 ・年間利用者人数　　８，１４２人（令和３年度　８，３０１人）
成果と課題	◆成果 ・公民館建物は建築後５４年経過し、古い建物ではあるが適切な維持管理を行うとともに新型コロナウイルス感染症対策も行い、利用者には特に支障なく利用して頂くことができた。 ◆課題 ・修繕が必要とされるものが数多く出てくると思われるので、今後も適切な維持管理が

	必要である。				
事業の方向性	継続	○	拡充		
	改善		縮小		

〔ト〕　社会教育関係団体補助事業	
事業の概要	◆目的 社会教育活動の推進を目的に実施される事業に対し、補助金を交付することにより、事業の円滑かつ有効な推進の一助とするものである。 ◆事業費　２，８４１千円（財源　一般２，８４１千円）
実　績	◆三戸町連合婦人会事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２０３千円 ◆三戸町子ども会育成連絡協議会事業・・・・・・・・・・・・　１１０千円 ◆三戸町文化協会事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４００千円 ◆三戸町凧づくりを楽しむ会事業・・・・・・・・・・・・・・　２０千円 ◆三戸町連合父母と教師の会事業・・・・・・・・・・・・・・　０千円 ◆三戸町高齢者学級寿教室事業・・・・・・・・・・・・・・・　４８０千円 ◆三戸菊クラブ事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６３８千円 合計　２，８４１千円
成果と課題	◆成果 ・補助金の交付により各団体の事業が円滑に推進され、社会教育活動推進の一助となっている。 ◆課題 ・各団体の会員の減少・高齢化が進んでおり､新規会員の加入促進が課題となっている。
事業の方向性	継続 ○　拡充 改善　縮小

〔ナ〕　サークル活動への支援	
事業の概要	◆目的 自主的な学習活動の推進の観点からサークル活動を支援するため、活動場所として公民館施設の提供等の支援を行う。 ◆事業費　０円
実　績	◆公民館利用サークル　団体数１６ つぼみ会、よさこい三戸チーム、カ・マイレ・フラサークル、ｋｏｋｏ ｃｌｕｂ、三戸町民俗芸能保存会、寿舞踊クラブ、キャンバスの会、コーラスドルチェ トールペイント教室、三戸菊クラブ、三戸絵画サークル、手話サークルさんのへ、寿書道クラブ、絵手紙サークル川の驛、囲碁クラブ、将棋愛好会
成果と課題	◆成果 ・公民館講座から独立した団体の活動の場を提供できている。 ◆課題 ・作品制作や舞踊以外のサークルの発表の場が少ない。
事業の方向性	継続 ○　拡充 改善　縮小

〔ニ〕　三戸町立図書館の運営	
事業の概要	◆目的 　自由で公平な資料の提供を中心とする諸活動により、町民の教養、調査及びレクリエーション等に奉仕する。 ・図書館蔵書の貸し出し、閲覧 ・レファレンス(利用者の調査への対応)の実施 ・県内図書館との相互貸借、移動図書及び配本を含む図書資料の貸し出し ・図書資料の選書、除籍 ◆事業費　４１，５９１千円（財源　一般４１，５９１千円）
実　績	◆概要 ・年間開館日数　　２９６日（前年度　　２９６日） ・年間貸出冊数　１６，２０３冊（前年度　１６，８６７冊） ・年間入館者数　　７，３１０人（前年度　　８，３９９人） ・蔵書冊数　　４７，７９５冊（前年度　４７，１６２冊）
成果と課題	◆成果 ・図書館屋根改修工事（１階児童閲覧室屋根全面、２階大屋根全面）を実施した。 ◆課題 ・図書館行事のひとつであるおはなしのへやは年々減少傾向にあるため、内容の見直しのほか新規事業についても検討していく必要がある。 ・施設の老朽化に伴い修繕箇所が増えている。
事業の方向性	継続 ○　拡充 ／　改善 ○　縮小

（５）生涯スポーツの振興

〔ヌ〕　総合優勝制町内対抗スポーツ大会	
事業の概要	◆目的 　町民の体力、健康保持並びに増進を図り、町民相互の交流・親睦を図る。また、スポーツ人口の底辺拡大とスポーツの日常化を図る。 ◆事業費　１９６千円（財源　一般１９６千円）
実　績	◆概要 　第３３回大会は、コロナウイルス感染症対策として予選リーグの日数を増やし、密にならないように対策しておこなった。町民大運動会は、町内会長・運動部長のアンート結果を踏まえ、中止とした。 ①バッゴー　令和４年５月１６日（月）～２０日（金）　１３町内参加 ②グラウンドゴルフ　令和４年６月２６日（日）　７町内参加 ③カローリング　令和４年７月１１日（月）～１５日（金）　１３町内参加 ④町民大運動会　令和４年９月２５日（日）　中止 ⑤ラダーゲッター　令和４年１０月１７日（月）～２１日（金）　１３町内参加 ⑥ユニカール　令和４年１１月１４日（月）～１８日（金）　１４町内参加 ⑦ペタンク　令和５年２月１３日（月）～１７日（金）　１４町内参加
成果と課題	◆成果 ・町民相互の交流、親睦が図られ連帯意識を高めることができた。 ・町民の体力、健康の維持、増進を図ることができた。 ◆課題 ・同じ町内会の不参加が目立ち、積極的な参加を促す必要がある。

	・参加者が特定のメンバーとなっている町内会が多く見受けられるため、老若男女が参加できる競技を採用するとともに、各競技におけるチームの年齢構成や男女枠の設定等についても参加要項を見直すなどして、より多くの町民が参加できるよう工夫する必要がある。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により３年連続で町民大運動会が中止となっている。今後運動会の在り方について、町内会長も含め協議が必要である。				
事業の方向性	継続	○	拡充		
	改善		縮小		

〔ネ〕　町民歩け歩け運動	
事業の概要	◆目的 　身体に負担をかけず、運動に慣れていない人にも理想的な運動方法であると同時に、肥満予防など健康効果が期待できるなど、だれもができる健康づくりのひとつであるウォーキングを通して、健康づくりの推進及び参加者相互の交流を図る。 ◆事業費　０千円
実　績	◆概要 実施日　令和４年８月２８日（日） 場　所　八戸市南郷（島守～不習岳） 参加者 ※天候不良のため中止
成果と課題	◆成果 ◆課題

事業の方向性	継続	○	拡充		
	改善		縮小		

〔ノ〕　三戸町スポーツ賞表彰	
事業の概要	◆目的 　三戸町スポーツ賞表彰規則に基づき、当町のスポーツの振興発展のため功績のあった個人・団体又はスポーツ活動において優秀な成績を収めた個人・団体を表彰するとともに、町民へ受賞者を紹介し、町全体でその功績を讃えるものである。 ◆事業費　９７千円（財源　一般９７千円）
実　績	◆【ス ポ ー ツ 賞】　４個人 【スポーツ奨励賞】　６個人・３団体 合　　計　　１０個人・３団体
成果と課題	◆成果 ・各種スポーツ競技において競技者として優秀な成績を収めた方々を表彰し、町広報誌等により広く町民に周知することにより、スポーツ競技者等のさらなる意欲の向上に寄与すると共に町民のスポーツに関する興味・関心の拡大につながった。 ◆課題 ・特になし

事業の方向性	継続	○	拡充		
	改善		縮小		

〔ハ〕　各種スポーツ大会補助事業					
事業の概要	◆目的 各体育団体が行うスポーツ大会の開催に対する補助を目的とする。 ◆事業費　０千円（財源　一般０千円）				
実　績	◆概要 新型コロナウイルス感染症の影響により、各大会中止となった。				
成果と課題	◆成果 ・特になし ◆課題 ・特になし				
事業の方向性	継続	○	拡充		スポーツ大会が円滑に実施されるよう補助金の交付を行い、多くの参加者が競技を楽しみスポーツに親しめるよう援助していきたい。
	改善		縮小		

〔ヒ〕　三戸町体育協会支援事業	
事業の概要	◆目的 三戸町体育協会の活動を支援し、町民の体育振興を図ることを目的とする。 ◆事業費 １，４２５千円（財源　一般　１，４２５千円）
実　績	◆補助金交付額　　１，４２４，５００円 ◆実施事業 （１）競技団体等への活動費補助（総額７９０千円） １７の競技団体及びスポーツ少年団への補助金交付 （２）普及振興事業 ・町内小中学校リレー競技会の開催 令和４年１１月５日（土）２１名参加 ・元旦マラソンの開催 令和５年１月１日（日）１０１人参加 ・バスケットボールルーキーキャンプin三戸 令和５年３月２５日（土）　１２０人参加 ・ふれあい野球教室 令和５年３月２６日（日）　４３人参加 （３）教室等の開催 ・スポーツ教室 開催種目　ソフトテニス（２９人）、剣道（１０人）、相撲、（６人） 登録児童・生徒数　４５人 ・ノルディックウォーキング教室 実施日　令和４年７月２３日（町内コース　８人参加） 令和４年１１月２６日（八戸市南郷島守～不習岳　１２人参加） 令和５年２月２５日（町民体育館　１９人参加） 令和５年３月１１日（町内コース　１８名参加） 令和５年３月１８日（八戸市種差海岸遊歩道　８名参加） 講　師　日本ノルディックウォーキング協会オフィシャルインストラクター 八戸　由美子　氏 （４）指導者資格取得・更新促進助成事業 陸上競技協会（４人）、サッカー協会（２人）、パークゴルフ協会（２人）、バス

	ケットボール協会（５人）
成果と課題	◆成果 ・各加盟協会へ補助金を交付することにより、大会やスポーツ教室等事業が積極的に展開され、競技スポーツの振興が図られている。 ◆課題 ・加盟競技団体の会員の減少・高齢化が進んでおり、新規会員の加入促進が課題となっている。

事業の方向性	継続	○	拡充		
	改善		縮小		

〔フ〕	スポーツ指導者の養成・活用
事業の概要	◆目的 町民のスポーツ振興と競技力向上、そして地域の実態や住民のニーズに応じた指導ができる人材を育成することを目的とし、三戸町スポーツ推進委員及び地域で活動するスポーツ指導者などの資質と指導力を高める。 ◆事業費　１，０１０千円（財源　一般１，０１０千円）
実　績	◆スポーツ推進委員の研修 （１）三八地区スポーツ推進委員研修会（９人参加） （２）三八地区地域スポーツ推進事業（８人参加） （３）第１回三戸町スポーツ推進委員会議（１０人参加） （４）第２回三戸町スポーツ推進委員会議（８人参加） （５）第１回三戸町スポーツ推進委員研修会（１０人参加） ◆各種スポーツ大会等における推進委員による実技・ルール指導及び運営補助等 （１）総合優勝制町内対抗スポーツ大会（運営補助）
成果と課題	◆成果 ・三戸町スポーツ推進委員が各研修会等に参加し、資質の向上を図ることができた。 ◆課題 ・指導者の資質の向上を図り、より一層生涯スポーツの推進を図っていく必要がある。

事業の方向性	継続	○	拡充		
	改善		縮小		

〔ヘ〕	勤労者体育施設管理運営（武道館・サンスポ）
事業の概要	◆目的 町民の生涯にわたるスポーツ振興を図るため、武道館・サンスポーツランドを適切に維持管理し、快適で使いやすいスポーツ活動場所を提供することを目的とする。 ◆事業費　６，６７９千円（財源　一般６，６７９千円） ◆サンスポーツランド使用料収入額　５６，３０９円
実　績	◆（１）武道館利用者数　１，２４３名（３年度：１，９２１名） （２）サンスポ利用者数 ５，３６９名（３年度：７，８１４名） 内訳　テニスコート　１５５名　　野球場　５，２１４名
成果と課題	◆成果 ・学校体育や部活動、町民の健康づくり、各種大会の開催など多様な活動場所として有効に使用されるとともに、身近で気軽に利用できるスポーツ施設として、多くの住民に利用されている。 ・武道館前のタイルを剥がし、モルタル修繕した。 ◆課題

	・各施設で老朽化が見え始めていることから、修繕等により適切な維持管理に努める必要がある。				
事業の方向性	継続	○	拡充		
	改善		縮小		

〔ホ〕　スポーツ少年団の育成支援					
事業の概要	◆目的 子どもたちがスポーツに親しみ、スポーツを楽しみながら、仲間との交流を図ることにより、青少年のスポーツの振興を図ると共に心身共に健康な青少年を育成することを目的に、スポーツ少年団活動を支援する。 ◆事業費　８０千円（町体育協会８０千円）				
実　績	◆（１）各種競技会への選手派遣 （２）令和４年度登録団数　３団体　　登録団員数　４３名 指導者数　９名				
成果と課題	◆成果 ・全単位団が地域の指導者としたスポーツ少年団となり、それぞれの団において競技協会を中心に指導員を派遣するなど、運営をすることができた。 ◆課題 ・指導者資格制度改定の移行期間であり､現指導者への周知及び資格なし指導者に対し、資格取得に向けた取り組みを促していく。 ・少子化によりチームが組めない、種目が限定される等このような状況は今後も進んでいくと思われる。町体育協会との連携をもとに、スポーツ教室等を通して子どもたちが様々なスポーツ活動に参加できる環境づくりを進める。				
事業の方向性	継続	○	拡充		
	改善		縮小		

〔マ〕　体育館等管理運営（町民体育館・松原運動公園）					
事業の概要	◆目的 子どもから高齢者まで、生涯にわたり長く、スポーツやレクリエーションに親しむことができるよう、体育館及び松原公園の適正な維持管理を行う。 ◆事業費 松原公園維持管理費　　３，３９７千円 ◆町民体育館使用料収入　　１２５千円				
実　績	◆町民体育館　年間利用者数　　１０，６０８人（令和３年度　９，５４０人） ◆松原公園　・樹木剪定及び除草等の実施　　（事業費１，９２５千円） ・陸上競技場・テニスコート整備　　（事業費　　３３０千円）				
成果と課題	◆成果 ・町民体育館は建築後５４年経過し老朽化しているが、適切な維持管理に努めており、支障なく使用することができた。 ◆課題 ・修繕が必要とされるものが数多く出てくると思われるので、今後も適切な維持管理が必要である。				
事業の方向性	継続	○	拡充		
	改善		縮小		

〔ミ〕　アップルドーム管理運営

事業の概要	◆目的 　町民の生涯にわたるスポーツ及び文化活動の振興を図るため、アップルドームの適切な維持管理を行い、快適で使いやすいスポーツ及び文化のための活動場所を提供することを目的とする。 ◆事業費　２２，４９１千円（財源　一般２１，８２１千円） ◆使用料収入　　６０６千円（令和３年度　４６３千円）
実　績	◆概要 ①学校部活、住民の健康づくり、若者のスポーツ活動、レクリエーション、各種スポーツ大会、集会等の円滑な使用に供した。 ②施設内清掃、整理整頓、施設周囲の除草等清掃の徹底をはかり、常に快適な利用に供するための適切な施設管理を行った。 ③利用者数　４１，０５０人（令和３年度　３７，４７１人） 主な利用施設　アリーナ（２２，４３８人)、トレーニング室（６，６２２人)、調理室（７２３人)、ほのぼの館（４，２６０人)、職業相談室（２，３９８人）など ④町民に職業紹介の機会を提供するための職業相談室（八戸公共職業安定所の分室）開設のため、無料で施設を提供している。同相談室は多くの住民に利用され、その求職活動に寄与している。
成果と課題	◆成果 ・小中高の部活動や住民の健康づくり、若者の体力づくりや仲間同士のレクレーションの場など多様な活動場所として有効に使用された。雨天時や冬季のスポーツ活動の場として有効に利用されている。 ◆課題 ・多くの機器や備品があり、定期的な機器補修と更新が必要。
事業の方向性	継続 ○　拡充 ／　改善 ／　縮小

〔ム〕　パークゴルフ場管理運営

事業の概要	◆目的 　町民の生涯にわたるスポーツの振興を図るとともに、健康の維持増進並びに住民の交流の促進に寄与することを目的とする。 ◆事業費　　１０，８７０千円（財源　一般１０，８７０千円） ◆指定管理料　６，６０３千円 ※令和２年度より、指定管理者によりパークゴルフ場管理運営を行っている。 ◆使用料収入　２，３９３千円（令和３年度　２，２８４千円）
実　績	◆概要 （１）開設期間　４月７日～１１月２７日 （２）開設日　　２３５日 （３）運営時間　午前８時３０分～午後５時（６月１日～８月３１日は午後６時まで） （４）利用者数 ()は前年

区分	総数（人）	内町外者	町外者利用率
小・中学生	（１３８） １５９	（１０７） １３５	８４％
一般	（１１，２４３） １３，０２１	（４，５５４） ５，０４６	３８％
合計	（１１，３８１） １３，１８０	（４，６６１） ５，１８１	３９％

（５）使用料収入　２，３９３，１００円（令和３年度　２，２８４，５００円）
令和４年度の利用者数は令和３年度に比べ、延べ１，７９９人増（町外５２０人

	増）だった。
成果と課題	◆成果 ・コロナの影響があったが期間中､延べ１万３千人を超える町内及び町外利用者が訪れ、気楽に楽しめるスポーツとして周知が図られた。 ・愛好者団体のみならず、多くの団体利用があり、パークゴルフを通じた多くの地域住民の親睦・交流の機会となった。 ・パークゴルフ場開設の波及効果として、隣接する道の駅、産直広場への利用者の回遊が見られ、これら３施設の複合効果で集客増につながった。 ◆課題 ・利用者増を図るイベント等の取り組みが必要である。 ・小中学生の利用者が少ないため、学校や子ども会等への周知が必要である。 ・町外、県外からの利用者が多いことから、文化や観光その他三戸町の情報発信を行っていく必要がある。
事業の方向性	継続 ○ 拡充 ／ 改善 縮小

〔メ〕　町民プール管理運営

事業の概要	◆目的 町民が水泳や水中運動、水に親しみながら、心身の健康増進を図り、生涯にわたるスポーツの振興に寄与することを目的とする。 ◆事業費　６，０８３千円（財源　一般６，０８３千円） ◆指定管理料　５，９９１千円 ※平成３０年度より、指定管理者により町民プール管理運営を行っている。 ◆使用料収入　２４千円（令和３年度　３８千円）
実　績	◆概要 （１）開設期間　令和４年６月１５日～令和４年９月１０日 （２）開設日　８１日（休館日を除く） （３）運営時間　夏休期間　午前９時～午後７時 夏休以外　午後10時～午後５時 （４）利用者数

区分	総数（人）	内学校利用	内町外者
幼児	４５	０	３
小学生	２，２４１	１，１２７	４８
中学生	３４４	２６０	２
高校生	９	０	１
一般	１０３		１７
団体	３３		
付添	１５２		
合計	２，９２７	１，３８７	７１

成果と課題	◆成果 ・シート張りの屋内プールのため、天候に左右されることなく開設することができたため、多数の利用者があった。 ・天候に左右されることがないため、小中学校の水泳の授業が計画的に実施できた。 ・利用者の事故、ケガが無く安全管理が適切に実施できた。 ・指定管理者の自主事業により、アクアチューブ体験や子ども向けのゲームなどが実施

	された。 ◆課題 ・指定管理者の自主事業が図られたが、プールを利用した多様な体験や遊びを提供することにより、更なる利用者増が望まれる。健康増進運動を取り入れるなど成人や高齢者の利用向上も図る必要がある。

事業の方向性	継続	○	拡充		
	改善		縮小		

（６）芸術・文化活動の充実と文化財の保存

〔モ〕　三戸町立版画工房運営

事業の概要	◆目的 文化の町づくりの充実振興を図り、文化事業の一環として版画創作活動の進展を図る。 ◆事業費　１１９千円（一般財源１１９千円） ◆使用料収入　８２０円
実　績	利用回数　１回　　利用者総数　１名 ６月　１名（県外）
成果と課題	◆成果 ・希少な利用需要に対応できた。 ◆課題 ・利用者の固定化が顕著であり、施設利用及び版画愛好者が年々減少している。将来を見据えた運営方法の検討を要する。

事業の方向性	継続		拡充		
	改善	○	縮小		

〔ヤ〕　芸術文化団体等補助事業

事業の概要	◆目的 芸術文化活動の振興を図るため町内の芸術文化団体に補助金を交付する。 ◆事業費　１，０５８千円（財源　一般１，０５８千円）
実　績	◆概要

団　体	主な事業	補助金額
三戸町文化協会	三戸町総合文化祭の開催	４００千円
三戸町凧づくりを楽しむ会	凧作り講習会・凧あげ大会の開催	２０千円
三戸菊クラブ	菊作り講習会・菊花展の開催	６３８千円

成果と課題	◆成果 ・芸術文化団体へ補助金を交付することにより、地域の文化および伝統芸能の振興を図ることができた。 ◆課題 ・各文化団体とも会員数の漸減や高齢化が進んでいる。会員の増強と後継者の育成を図っていく必要がある。

事業の方向性	継続	○	拡充		
	改善		縮小		

〔ユ〕　三戸町文化賞表彰

事業の概要	◆目的 三戸町文化賞表彰規則に基づき、当町の芸術文化の振興発展のため功績のあった個人

	・団体又は創作活動において優秀な成績を収めた個人・団体を表彰するとともに、町民へ受賞者を紹介し、町全体でその功績を讃えるものである。 ◆事業費　１５９千円（財源　一般１５９千円）
実　績	◆【文化功労賞】　２個人 【文　化　賞】　９個人 【文化奨励賞】　３団体 合　計　　１１個人　３団体
成果と課題	◆成果 ・各種文化・芸術等の分野において指導者として貢献した方、あるいは創作・制作・演技・演奏活動等で優秀な成績を収めた方々を表彰し、町広報誌等により広く町民に周知することにより、芸術・文化活動へのさらなる意欲の向上に寄与するとともに町民の文化・芸術に関する興味・関心の拡大につながった。 ◆課題 ・町民への芸術・文化活動への啓発を続ける。

事業の方向性	継続	○	拡充		
	改善		縮小		

〔ヨ〕　三戸城跡保存活用事業	
事業の概要	◆目的 三戸城跡を後世へ適切に伝えるための保存と活用を行う。 ◆事業費　１，６０２千円（財源　その他　　千円・一般財源１，６０２千円）
実　績	◆①『国史跡三戸城跡保存活用計画書』の編集 ②「国史跡三戸城跡 幟」の設置 ③「三戸城跡広報用映像制作・放送」の実施 ④「お城へ行こう！」の開催（小中学生向けの城歩き事業）
成果と課題	◆成果 ①『国史跡三戸城跡保存活用計画書』の編集 概要：国史跡三戸城跡の適切な保存と活用のために計画を策定し、計画書を冊子として刊行する（令和４年度は原案作成、令和５年度は計画書を刊行）。 ・令和４年１１月から計画書の原案執筆を開始。 ・令和５年１月１７日～２３日に奈良文化財研究所で「史跡等保存活用計画策定過程」を受講し、計画書の原案（第１～１０章）を作成し、完成。(139,580円) ・令和５年３月２０日に第１回 国史跡三戸城跡保存活用計画策定委員会を開催した。 ※当該計画は、国史跡指定から２年以内を目安に策定をする。 ※三戸城跡は令和４年３月に国指定を受けていることから、令和６年３月までに策定を完了する予定。 ②「国史跡三戸城跡 幟」の設置（経費：161,700円） 概要：国史跡三戸城跡内の動線や主要部へ幟（３０本）を設置し、城郭としての雰囲気を高めた。 ③「三戸城跡広報用映像制作・放送」の実施（経費：1,300,000円） 概要：国史跡に指定された三戸城跡を町内外へ広く周知するもの。 ・特別番組「三戸城跡の歴史～南部家戦国最後の居城～」を放送 放送日時は、令和４年７月２日（土）11:15～11:45 ・ＰＲ用動画の編集（上記番組を12分の映像に再編集） 当該動画は各種イベント及び研修会で視聴を行った ④「お城へ行こう！」の開催（小中学生向けの城歩き事業・八戸市と共催） 第１回目＝実施日：７月１６日（土）

	場　所：三戸城跡 ～石の城を歩く～ 参加数：親子２組（３人） 第２回目＝実施日：７月２３日（土） 場　所：根城跡 ～土の城を歩く～ 参加数：親子６組（１４人） ※南部家の歴史と城跡の変遷について両城の特徴を比較することで、歴史理解が高まった。また、夏休みの自由研究の教材となるなど、活用の促進につながった。 ◆課題 ・「国史跡三戸城跡保存活用計画策定」の事務を進め、令和６年３月の刊行を目指す。 ・国史跡三戸城跡の保存に万全を期すため、普段からのパトロールといった体制の強化に努めていく必要がある。 ・令和３年度に実施した「お城へ行こう！」では、定員４０名を超える応募があったが、当該年度では３名に留まった。この理由としては、前年度は日曜日の開催であったことから、親子が参加しやすい曜日であったと考えられる。今後は、開催日の曜日を含め、より多くの人が参加できるよう内容の調整を図っていく必要がある。				
事業の方向性	継続	○	拡充	○	史跡の本質的価値の周知を図るとともに適切な保存を確実なものとし、発掘調査等の研究を継続しながら、活用と整備を推進していく。
	改善		縮小		

〔ラ〕　歴史民俗資料館運営事業	
事業の概要	◆目的 郷土の文化財を収集・保管・調査研究するとともに、展示して一般公衆の観覧に供する。 ◆事業費　９，６４６千円（財源　その他１，０５０千円・一般財源８，５９６千円） ◆入館料収入　６７８，１６０円
実　績	◆全体の実績 ・期　　間：令和４年４月１日～１１月３０日（延べ１８５日間） ・入館者数：３，６３１人（前年比＋1,358人） ◆城歩きガイドの設置 ・城歩き案内回数　１５回 ・解説人数　人 ◆企画展 ※コロナ禍の影響を考慮し当初から中止とした。 ◆御城印販売事業 目的：三戸城跡の周知及び保存整備・活用を推進するため「三戸城御城印」を販売するもの。なお、令和４年３月１５日に、三戸城跡が国史跡に指定されたことを記念した特別御城印についても限定（５００枚）販売を行った。 ○通常御城印の販売実績 金額：１枚３００円（売上金の一部は保存整備・活用事業費へ充てる） 売上：２７４，２００円（販売枚数：９１４枚） ○特別御城印の販売実績 金額：１枚５００円（売上金の一部は保存整備・活用事業費へ充てる） 売上：２５０，０００円（販売枚数：５００枚（完売）） ※当該事業は、南部領内の主要城館跡（１３城）の管理団体が連携・相互協力し情報発信がなされている（南部御城印プロジェクト）。 ◆解説パネルの刷新 三戸城跡に関連する解説パネル５２枚を刷新した。

	◆国史跡三戸城跡のＰＲ動画の配信 ９月～１０月中に国史跡三戸城跡のＰＲ動画を館内で視聴できるようにした。 （再利用した仮設モニターが不良となり、途中で視聴は終了した）
成果と課題	◆成果 ・入館者数について次年度と比較すると約６割の増となっている。 ・入館者数の大幅な増加の要因としては、当館が所在する三戸城跡が国史跡に指定されたことによる知名度向上もあるが、特別御城印の販売を含め、様々な機会を通じて国史跡三戸城跡の周知に努めてきたことが入館者の増につながったと考える。 ・解説パネルの刷新により展示が充実した。 ◆課題 ・所蔵資料が収蔵庫の許容量を超えており収蔵庫内は資料で溢れている。このため、企画展のたびに入替作業で多くの時間を要するなど、保管場所の確保が大きな課題となっている。 ・展示室が狭く、また、固定された展示ケース等の制約から、「見やすさ」について当館は不適である。将来的には配置をはじめとした抜本的な見直しを要する。 ・施設の老朽化が進んでいることから、毎年、修繕の箇所が増えている。 ・三戸城跡が国史跡となったことから､利用者のニーズが拡大することが予想されるが、対応できるような運営体制を整える必要がある。

事業の方向性	継続	○	拡充	○	国史跡三戸城跡に関する展示や体験学習等の活用に関する分野の充実を推進していく。
	改善	○	縮小		

〔リ〕　地域学習サポート事業	
事業の概要	◆目的 郷土の歴史や文化に関する多様な学習プログラムを設定し、各種団体の地域学習に関する支援を行う（小中学校の立志科や社会科等への出前授業等）。 ◆事業費　０千円
実　績	①「三戸城跡の歴史」 八日町町内会（10人）　5月6日 ②「絵図を使った調べ学習」 三戸小学校３年生（49人）　6月 ③「三戸城跡の歴史（城歩き）」 岩手県北文化財審議委員（35人）　6月29日 ④「三戸城跡の歴史（城歩き）」 三戸郡中学校教諭社会科部会（12人）　7月29日 ⑤「三戸秋まつりの歴史」 三戸小学校５年生（60人）　8月30日 ⑥「三戸秋まつりの歴史」 斗川小学校全校児童（23人）　9月5日 ⑦「三戸城の歴史」 鷗盟大学・１回目（20人）　9月6日 ⑧「三戸城の歴史」 鷗盟大学・２回目（20人）　9月13日 ⑨「三戸の伝統芸能」 斗川小学校全校児童（23人）　9月28日 ⑩「三戸城の歴史（城歩き）」 三戸郡教育委員秋季研修会（30人）　10月12日

	⑪「三戸城の歴史（城歩き）」 三戸小学校６年生（56人）　10月20日 ⑫「道具とくらしのうつりかわり」 南部町立福田小学校・福地小学校・杉沢小学校３年生（50人）　11月7日 ⑬「三戸城跡 城歩きツアー」 一般（8人）　11月13日 ⑭「三戸城跡の歴史（城歩き）」 二戸市公民館講座（39人）　11月17日 ⑮「三戸城の歴史（入門編・スライド）」 土曜塾（20人）　2月4日 ⑯「道具とくらしのうつりかわり」 三戸小学校３年生（48人）2月16日　　利用総計＝５０３人
成果と課題	◆成果 ・地域学習を通じて郷土に対する理解や愛郷心を育むことができた。 ・授業の主体が体験型なので高い学習効果を生む。 ・町内の住民が保管している昔の道具の寄贈を受けたことから教材の補充ができた。 ◆課題 ・長年使用を続けてきた教材が劣化、破損しており、修繕が必要となっている。 ・教材のメンテナンスや修理不能となった資料の補充を続けていく必要がある。 ・小学校の社会科学習教材における用水をはじめとした近代資料の教材を補填しておく必要がある。 ・当該事業で最も要望が多いのは三戸南部家と三戸城跡についてであり、解説を補う資料の充実が必要である。 ・学習メニューや教材の増加に伴って、保管場所が狭隘となってきている。 ・学習指導要領の改訂に伴う、学習プログラムの見直しが必要である。 ・三戸の小中一貫教育の根幹となる「立志科」の郷土学習に対応できる地域教材の整備が急務となっている。

事業の方向性	継続	○	拡充	○	体験型の学習を充実させるため、教材の開発や資料の収集に努める。
	改善		縮小		

〔ル〕　伝統芸能保存継承事業（再掲） （学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成と関連）	
事業の概要	◆目的 伝統文化の保存継承のため、活動の記録作成や後継者の育成支援、発表機会の充実に努める。 ◆事業費　０千円
実　績	◆伝統行事での各団体の活動支援及び記録作成 ①「泉山七歳児初参り」※コロナ禍の影響により中止 ②「三戸秋まつり（斗内獅子舞）」 ◆各種発表会等での各団体の活動支援 「斗川小学校学習発表会」での支援 期日：１０月１日（土）斗内小学校1～6学年（23人）による演舞 ◆継承活動（学校授業等）への支援 斗川小学校　1～6学年の舞の指導（総合学習） 期日：9月毎週月曜日（うち２回） 斗内獅子舞保存会　児童・生徒への指導

	期日：6～10月まで（合計18回）
成果と課題	◆成果 ・活動支援により、後継者育成の一助になっている。 ・団体が抱える課題についてまとめることができた。 ◆課題 ・団体の運営の中で特に問題となっているのは運営費が少ないことである。 ・団体の活動で最も重要なことは後継者の育成であり、このことが保存と継承を大きく左右する。しかし、近年の大幅な人口流出等により、どの団体も後継者の確保が困難となっている。 ・遠藤のえんぶりの再開について 遠藤のえんぶりは平成１７年に行われたのを最後に、現在まで実施されていない。 今後も活動再開の手立てを模索しながら、引き続き復活に向けた話し合いを継続していく。

事業の方向性	継続	○	拡充	○	保存と継承を推進するには、各種団体の発表の機会を充実させることが最も重要であり、関係機関に働きかけをしていく必要がある。
	改善		縮小		

〔レ〕　歴史講演事業	
事業の概要	◆目的 三戸町の歴史研究及び保護を推進するとともに、地域住民が郷土の歴史に触れ、誇りを持てるよう研究成果の公開・活用を実施し、文化の発展に寄与する。 ◆事業費　２７０千円（財源　その他　　千円　一般財源２７０千円）
実　績	◆三戸城跡国史跡指定記念講演会の開催 期日：令和４年１０月３０日（日） 会場：三戸町民体育館 演題：①特別講演　－三戸城跡の歴史的価値とこれから－ 講師＝三内丸山遺跡センター所長 岡田康博氏 ②特別企画　－殿様・藩士が語る 南部氏と地域への想い－ 出演＝第４６代南部家当主 南部利文氏 旧盛岡藩士桑田理事 戸澤武美氏 定員：１００名（※事前申込制・応募は１００名以上）
成果と課題	◆成果 ・講演を通じて、国史跡の保存と活用の大切さについて一般の理解が高まった。 ・現在も続く士族の想いを直接聞くことで、歴史には重層性が含まれていることを理解でき、また、保護を継続するための啓発にもつながった。 ・定員１００名を超える応募があるなど、三戸城跡の関心を高める契機となった。 ◆課題 ・国史跡指定の初年度でもあるが、改めて、三戸城跡への関心の高さを窺うことができた。しかし、注目度を維持することは容易ではないため、引き続き当該城跡の歴史的魅力を高めながら広報や周知に努めていく必要がある。 ・三戸町には、多様な歴史資料や伝統文化が残っていることから、これらについても、優先度に応じて、周知する機会を得るように努めていくことが重要である。

事業の方向性	継続	○	拡充	○	
	改善		縮小		